愛國婦人會機關

愛國婦人

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

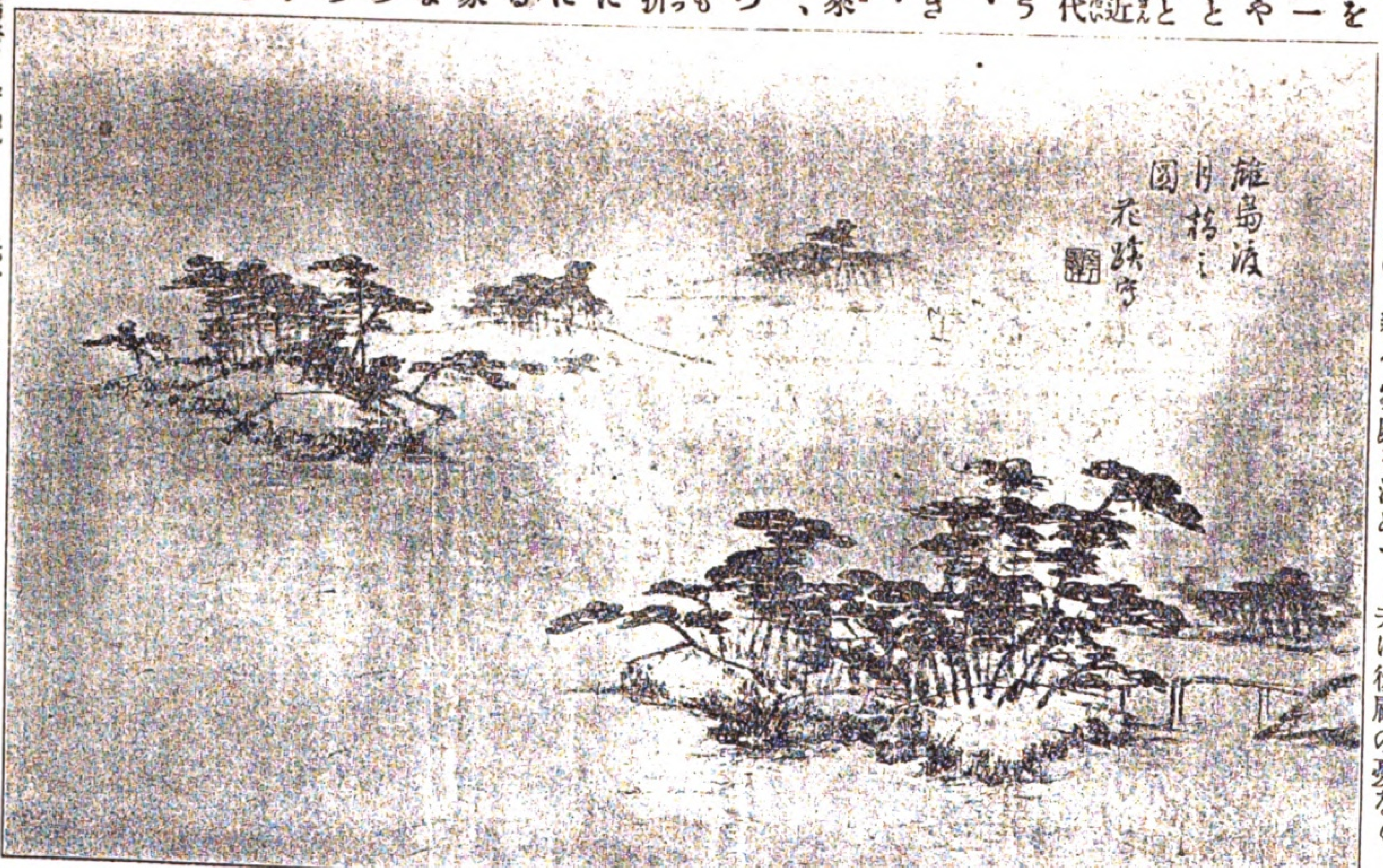
每月五日二十日發行
一部金參錢　一ヶ月六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

社說

居候

一國を形成するに、第一入用なるは人間なり、それも千人や萬人にてはいかず、人數は多きほど、國としては待み强く、五千萬は、一億でも差支なく、ならばさうしたきものなり。戰爭にても百萬の軍を起さんとするに、後が空ら明きにては續かず、止むなく、戰さはやめて、向ふの言ひ分を通さゞるを得ず。平時にてもその通り、人數がなくては、競爭には負けなり。國に先づ大切なるは人間の數なり。されば佛國の如き、人口の減る傾きある國は、行末が心細く、棄兒の養育、早產兒の保育などを、熱心にして、少しにても、人口を增さんとあせるは、尤ものことなり。日本はその反對にて、隨分繁殖力强く、年々百萬は殖へるとあれば、日本人の種切れとなる氣遣ひなく、天壤と共に、國は萬々歲なるぞ芽出度けれ。然らば人間さへ多ければ、國は結構、その上の望みはなきかと、いふにあり。支那の人口は凡そ五億にて、人數からいはゞ、世界一の國なれども、文明と富强にかけては四千萬に足らざる英國には依り附けず。國の眞の强みは、飲み食ひを業とせる人間の數にあらずして、良く働く人間の數にあり。一億の同勢ありとも、一人が半人前しか働かぬか、又は半分が遊んで居らば、一人前によく働く五千萬人と、仕事の高は同じにて、着物や食料の倍入るだけが損にて、兎ても富强の望みはなきものなり。

是に於て我等の問題は、日本人は良く働くか働かぬかにあり、勿論朝鮮人よりは働くに相違なし、然れども朝鮮人を標準として居ては、兎ても間に合はず、世界の烈しき競爭場裡に馳騁せんなどゝは思ひも寄らざるなり。然らば英米人と較べては如何にといふに、殘念ながら日本人は及ばず。向ふは我れの二人前は働くやうなり。戰爭の度每に我が國はめき〳〵とのし上げて、都會には電車ができ、電話ができて、人間忙しくなりて、天晴れ文明國の多忙家となりすましたる積りならんも、彼の國人に較ぶればまだ〳〵寬つくりしたものなり。働く氣て居て働き方の足らぬは、先きに見込みありて、結構とするも、一番困るは働かぬ人間の多きことなり、居候の多きことなり。日本は居候國なり。他家に厄介となりて何もせず居食ひする者を居候といふ。この居候の多きは勿論、家族の中にも、居候と名乘らずして、天下晴れての、實は居候たる者少なからざるなり。それは子供の事ならん、子供は致し方なしといふ人あらんも、子供にあらず、立派な大人なり、脛腰達者の大人なり。他所よりの居候は暫時にして、いづれは仕事あるまでの假りの滯在なれば、先づは致し方なしとして、困るは一家中の生涯の居候なり。尤も不具、癈疾、老年などにて、人の扶助を要する者は、誠に氣の毒にして、傍の者は出來るだけ、親切にせざるべからず、これは別の話にして、こゝに言ふ居候は、働ける身を以て、のらくらして居る者をいふなり。一體東洋の道德は「從」の一字に重きを置けるが故に、他人に依賴する心强く、成るべく人に働かして、自分はこれに倚り縋りて遊んで暮さん考への者多し。されば親類中に艱難苦勞して漸く多少の資產も出來、一本立ちとなれる者あるときは、親類の者は、それを手本に、自分も一つ勉强してあのやうになつて見んとの氣を出さすことはさしおいて、近親は勿論、五六代前の誰さんと何うやらであつたと、聞いたこともなき遠緣の者までが、何處から聞いて來たか、遣つて來て、皆で寄つてたかつて、一人を食ひものにするより、折角出しかけた芽に蟲がつきて、遂に共倒れとならざるを得ず。單り一家の不幸たるのみならず、實に一國の興廢に關するものなり。一國の强みは、人口の多きと共に、居候の少きにあり。今の日本の隆興は居候のお陰にあらずして、居候あるに拘らざる也。今の日本は努力の日本なり、國家は國民の一人も働かざる者なきを要求す。されば各々、成るべく人の世話にならず、人に厄介をかけずして、自分は自分て立つて行くやうせざるべからず、たとへ子供が一人前となりたりとも、親は其世話とならずして暮らすだけの用意はかねてなし置くべく、又相變らず働いて行くべし。尤も女子は男子と違ひ、家庭を治むるが、專門の役にて、通例自ら衣食の資を給する能はざる者なれば、よく家庭を治めて、夫に後顧の憂なく、充分働かしむれば、詰まりは、自分も夫と一緒に働きたるにて、それで結構なり。要するに男女を問はず、內外を論せず、皆よく働きて、居候の種切れとならんことを、一家の爲め、一國の爲に望んで止まざるものなり。



奥羽土産（其一）

▲初秋の旅

評議員 伯爵夫人 酒井夏子

▲總裁殿下の秋田支部に臨ませ給ひし折御とも申ける道すがら
黄なる花紫のはなさく野へを
よきりてゆくか初秋の旅

▲福島松葉館にて
阿武隈の瀨の音さやけし霧の中に
あゆつる小舟うすう見えつゝ

▲天童驛にて鈴虫を献じたる折
あらん限り汝か美しき聲をもて
きかせまつれよ籠のすゝ虫

▲總會の折
國を思ふ人ついにいく千人
集ふもうれし朝日さす園に

▲松島にて
老松の色そへむとや松しまの
千島もゝしま秋の雨ふる

▲秋の千草

評議員 跡見花蹊

▲小山にて秋の花籠を献しければ
たてまつる人の心もにほふかな
秋の千草のはなのいろ〳〵

▲白川にて
老の影うつしなからもしら川の
せきのこなたに渡り來にけり

▲吾妻の富士を見て
工みなる筆をみそらにくまとりて
あつまのふしにかゝる白雲

▲白石驛にて
宮城野のしのふのむかし忍ふかな
このしら石に車とゝめて

▲秋田總會
とこしへに仰けもろ人賤か刈る
秋田の里のけふのつとひを

▲天童驛にて鈴虫を献したる折
なぐさめの神の使と聞けや君
このうまや路のすゝむしの聲

▲松島に船遊びして
松島や雄しま月しまこきくれは
塵のうき世も遠さかりつゝ

電話番町五百二十番

◎本號には有栖川宮妃殿下御眞影の寫眞版附錄を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

獨逸の家庭

醫科大學助教授醫學士　永井潛

獨逸の家庭と日本の家庭とを比較して見ますに、其組立てが甚だ相違して居ります、獨逸は所謂個人主義で、親子別居制度を確く守り、日本は家族主義で、親子同居制度であります、私共日本人の眼から見ますと、歐洲流の家庭は、眞正なる意味に於ける家庭を形作つて居らぬかと思はれる程でありまして、家庭に於ける溫かみと云ふものが尠く、親子の關係等に於て甚だ冷かなる所がある樣に認めます、故に夫婦關係は親密かも知れませんが、家族的關係は甚だ薄いものであります、現に私共が留學中の出來事に或る名譽博士の妻君が、年齡八十歲に垂んとする老體で、黑焦になつて死んだと云ふ新聞が出ました、其原因はと申せば、煖爐の火が衣服に移つて遂に消すことが出來ないで死んだと云ふのでありますが、是れが若しも日本であつたならば何うでありませうか、上流社會の家庭に於て、斯る老人を一人で寐かして置くやうなことは致しますまい、從つて左樣な過失の生ずる機會もない事と思ひます、斯樣な例は只一ではありません、或時姉と弟とが連れ立つて教會へ參詣致して居りましたが、其姉の方が十日斗り其教會へ來んので、教會の僧正が不思議に思ふて、姉の樣子を聞きますと、弟は始めて不審を起し、歸宅して姉の室屋に往つて見ると、四方が閉されて入ることが出來ない、其處で其一方を打破つて中に入つて見ると、姉は餘程以前に死んで居つたと云ふが如き出來事があります、是等は日本人の思想では考へ及ばぬことでありますが、斯る記事が新聞に出た處で獨逸人は格別不思議のこととは思ひません、常事のやうに見做して居ります、翻つて日本の家庭を見ますと、實に美しい花園を見たやうなもので、親も、子も、夫も、妻も、姉も、妹も、互に相和し相親んで團欒して居る有樣は、到底歐洲大陸人に豫想だも出來ぬ制度でありまして、社會生活上に最も適當したものであり、又進步したる組織かと思ひます、故に日本に於ては、矢張り此家族制度を圓滿に發達せしむる工風を計るとか必要であつて、此點は歐洲の制度に見習はぬことが宜しいと思ひます、併し獨逸婦人の學力と、日本婦人の學力とは、甚だしき距りがあると認めます、獨逸では如何なる學會でも、婦人の講聽者が、男子の講聽者に劣らぬ程多數ありまして、現に私の師の會長をして居られる人類學會の如きは、婦人の方が男子より多い程でありまして、婦人が男子と同樣競うて高尙なる學術の世界に遊んで居りますが、日本では假令大學の門戶を開放し、婦人の講聽を許すとしても、講聽す可き能力を備へて居る婦人は蓋し尠いことと思ひます、此點は私共の甚だ殘念に思ふ所でありまして、男子と同じ單位に駢ぶ丈けに、婦人の力を高めねばならぬことと思ひます、帝國大學の如き高等なる學問の府に於ても、只少數の男子斗りに向つて教育を施すよりも廣く公開して、婦人は素より學に志すものは誰にでも講聽せしむるやうにし、且つ一方には大學の教授あたりが、或る時間を割いて婦人の爲めに講演を開く等、常に高尙なる學術の園に導くやうに勤めることが、今後尤も必要なことであると思ひます。

次に日本の教育に缺けて居ることは、趣味の教育が尠いことであります、獨逸では中等以上の家庭に美術、音樂、文學等の嗜みのない婦人は、一人もないと申してもよい程で、音樂の如きは男子の學生と雖も知らぬものはありません、從つて人と應對する其の談話にも趣味があつて、自ら人格の高きを覺えます、是れは畢竟するに家庭に於て母たる人が趣味ある教育を受けて居る結果であります、日本に於ても同じ淨瑠璃を聞くにも、文學的趣味を以て是れを迎へ聞くやうな心掛が必要かと思ひます。

奥羽土產（其二）

官吏と實業家

山形縣知事　馬淵鋭太郎

今日の社會では實業と云ふことが非常に獎勵されて居る結果、實業と云ふことは青年男女の腦裡に深く染み込んで居て、青年の學に志すものの十中の八九は皆實業家志願であり、婦人も又實業家の妻たらんことを希望し、家庭に於ても實業方面に向ふことを獎勵して居るやうであるが、實業とは果して如何なるものであるか、實業家とは如何なる人を云ふか、其意義が未だ充分に了解されて居らぬやうである、元來日本の實業なるものは其範圍が頗る狹く、世界的の實業家は殆んど日本にないと云つてよい、從つて戰後經營上實業の發展を計るとしても、其極に當る技倆と富とを併有して居る實業家は一人もなく、世界の人々を相手にしてする仕事は、今日の實業家の位置としては望まれないのである、故に滿洲鐵道の如きも、全く半官半民と云ふよりは、寧ろ國家の力で行はれて居ると云つて宜い、其他鐵道國有と云ひ、煙草專賣と云ひ、大なる企業は皆國家の手で經營されて仕舞ひ、日本は一の實業的國家になつて仕舞つて、生產分配の事柄から、總て國を一纏めにして外に當ることとなつたのである、其處で民間の實業と云ふものは極めて狹いもので、地方的の企業に過ぎぬやうになつたのである、從つて才識技倆のある士は皆官吏となつて腕を揮ふより外はない、官吏生活は一番安全で、且つ淸潔である、昔の武士氣質で事を執つて行くことが出來るが、實業家の門に入ると、金錢上の利益は多少官吏よりは多く得らるゝか知らぬが、其仕事の巾は實に狹いものであつて、仕事を後世まで殘すことは出來ないのである、我が縣の如きは日本國中の一區畫に過ぎぬのであるが、縣民の身體並に生命の保護は素より、其發達進步も助ける事に勤めねばならず責任の重き事を想ふ時は、其仕事に對する愉快は實業家などの到底夢想し能はぬものがある、故に今日官吏となるを嫌ふと云ふことは、將來の日本を達觀したる士の事でないかと思ふ。

婦人事業と地方行政

秋田縣知事　清野長太郎

此度秋田支部總會を開くに就て得たる經驗を申上げますなれば、第一に婦人事業と、地方行政との關係であります、秋田は日本の內でも僻陬の地でありました爲めに、文化普く行はれずして、政黨相軋り合ひ、人民の一致融和と云ふことが六ケしうありました、其內でも婦人は尙一層程度が低く、舊慣を守つて保守的で、頑固な人が多くありまして、地方行政を行ふにも頗る平和を缺き、圓滿なる進步を計ることが六ケ敷い所でありましたが、此度の總會には意外にも婦人か非常の活動を始めました、若しもこれが男子の事業であつたならば、數十人の負傷者を出して居つたことであらふと思はる、程の勢で、後には其勢いの餘りすざまじさに恐ろしく感じた程でありました、婦人の後には必ず男子が黑幕として居るものでありますが、其男女が共に一致し、且つ上下貴賤の差別なく働いたのでありまして、有功章を頂戴する席にも高等官の婦人が居り、其隣りには小間物商の御內儀さんが居る、其次には又議員の細君が駢んで居ると云ふ次第で甚だ奇觀を呈し、秋田縣設置されてより以來、斯く一堂の下に總ての階級の男女を集めたことは無いのであります、從つて一道の光明は此會合に依つて導かれ、縣民共和の氣風を形ち作ることが出來、將來縣治上に及す影響は少なからぬことと思ひます、政治を執ると云ふことは、只法律を執行して往くと云ふ斗りが仕事ではありません、縣民の融和を計り、其內に於て進步發達を計ると云ふことが、政治の極致でありますから、今回の總會の如きは、直接に縣の政治には影響しないことでありますが、間接には非常なる利益を縣下に及ぼしたことと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

募集小說

木槿垣

武田櫻桃

「お嬢さま、儂はもうこれでお暇を致します、末長く旦那樣と……」と聲を咽んで、侍女の花は泣崩れるのであつた。

「お暇？　お前は何日の間にそんな氣におなりだらう、儂はいつまでも〳〵姉妹の積りで居たのに……お前、そして、何日故郷へお歸りだえ？」

「明日の朝歸らうと存じます、これまでお嬢樣には一方ならないお世話になりまして、勿體ない事ながら儂もお主さまのやうな氣が致しませず、どうやら姉妹のやうに、お心安だてを申しましたが、昨日今日にこんな事にならうとは！」

メレンスの襦袢の袖も、朽ちよと泣いて、身を慄はしたが、やがて露置く眼に仰いて、

「お嬢さまの旦那さまは松浦重雄さまと被仰るのでございますね」

「何故さ」と令嬢伏眼になつて、「可厭よ、花は、儂を愁弄はうと思つてお出てなんだね！」

「ま、お嬢さま、什麽してそんな大それた……」

とお花は妙に羞恥むやうに、

「どうぞ、末長く、お仲を睦まじく遊ばして、早く可愛い坊ッちやまのお顔が見たいものでございます」

「可厭よ、さう冷かすものぢやァなくつてよ、儂、てなくつても……」

云ひ淀んで、令嬢

「お前の故郷は靜岡だつたね！」

「さうでございます、沼津の在でございます」

「儂が今度お嫁に行く、その、松浦さまも沼津の方なのよ！」

犇とお花は胸を抱いたが、素知らぬさまぞなほ辛さ。

「おや、矢張り！」

令嬢は、トモ知らぬ。

「お前も故郷へお歸りだと、速ぐにお嫁にお出でだらうね」

花の身にもなりて見給へ、今令嬢と婚約のなりしてふ、其松浦重雄なる男こそ、幼き折の許嫁、山に蕨を摘む朝も、小川に月を掬びし夜も、離れじと誓ひしなるを、松浦の家の富めるに似ず、お花の家の零落れては、其約束も仇となつて、相見ざる事こゝに九年、重雄が大學を卒業して、東京に居を卜し、今わが事ふる令嬢と、近きに華燭の典を擧げふとは、思ひも圖らぬ事であつた。

「どう致しまして、儂のやうな者を貰つてくれる家はございませんわ！」

「さうだつたね」

と令嬢はお花の顔を振仰いて、

「儂忘れて居たことよ、お前には許嫁があつたんだつたね！」

「えゝ〳〵、立派な許嫁がありますの」

いかに苦しき胸の煩へや、お花は次くべき言某を知らぬ。

「定めし立派な方だらうねえ」

始めて活路を得たごとく、淋しい笑を片頰に見せたが、

「勿體なうございますが、丁度あの……」

と句を切つて

「いつやら拜見致しました、お嬢さまの旦那さま……あのお寫眞に酷似てございますの！」

「え？」と令嬢眼を瞬る。

「年格好も、何も、彼も、好くまアあゝも似た方があるもの、と儂は不思議でなりませんわ」

「また、花は、あんな事を云つて愚弄ばうと思ふんだよ、儂もう知らないからいゝ！」

「なんの、まツたくの事でございますわ、ですからもう」

「儂を憎くお思ひのだらう」

「あら、ま、何と申上げたらいゝでせう、儂、嘘なんぞ申しは致しません」

「名前は何とお云ひだのだえ？」

云ふまでもない、松浦重雄！　それとは什麽して云ひ得やう、お花は針の蓆の上。

「申上げるやうな名でございません」

不圖眼を外せば、椽の先き、槿花の垣に白きが一個、夕日に恥ぢてや、背を見せたり。

「あら、お嬢さま、木槿が一つ咲きましてよ、可愛いてはございませんか」

「さう」

と令嬢庭を見て、

「いつ、まアあんなに咲いたのだらうね？」

知らずや、夢に咲きたる木槿の、やがては夢に散るものを、秋は淋しい雨ばかり！

（完）

東西名婦傳

小野寺丹子

須藤求馬

丹子は灰方氏にして、赤穗義士小野寺十内秀和の妻なり、資性溫和にして、才學あり義氣あり、和歌を善くし、手跡も拙からず、又畵もかけり、夫と共に常に風雅の道を辿り、殊に仲睦ましかりける旨は、秀和より送れる數通の書に見えたり。初め赤穗の難に馳下りたる時、彼處より同姓十兵衞へ贈れる書は。「老母妻にも此志は不申聞候樣子にて、さとりたる事も知らず候、（中略）女にて聞ても、さのみさわぐまじきおほえ有之候間、被仰聞下さるべくと」あり。又その翌年復讎の爲東行して後、極月十二日妻へ贈る文にも。「萬一如何樣の難義罷り來りしとても、見ぐるしきやうにはしなし申されまじく候、又何れもなき世の中にて候はゞ猶以ていかやうにも渡世めさるべく候、心の働きおはしますと覺え候ゆゑ、中々心安く存候、今更おもひ殘す事もなくて、心よくうち立候まゝ、そもとにも、せめての本望とおもひ給ひ候へかし」。又二月三日の文にも。「そもじも安穩にも有まじき歟、さ侍候はゞ、かねて覺悟の事取亂し給ふましきと心安く覺え候」などのごとき。前後の詞に、その人がらしらる。固より此程の心づかひ多き中にも、書かはされし趣にて、其風雅みゆ。中にも極月十二日の文に。「此方の歌、とりわき相坂の歌哀のよしよく聞給ふとぞんじ候、そてもとの歌、さて〳〵感じ入候、泪せきあへず、人の見るめをおもひ、まことに泪を飲むといふ心にて、幾度か吟じ候、おくの方勝り可申候、是につきても、必々歌御捨なくて、たえず詠み申さるべく候」とあるなど、哀にやさしくこそ。復讎の事起りて後、此婦人のよめる歌は、秀和の返事に感じ入と見えしも、其外に多くは傳はらず、平生に詠めりしは、夫婦共に歌の師とせし金勝慶安のゆかりの人もてる直筆の寫に、なき人の墓に詣てし詞書有つて（きのふまで問ば答へしてとのはに聞てぞかふれ松の下風）春風を題して、（咲きそむる外山の櫻匂ひきて人おどろかすはるの朝風、）岩瀨てふ名所の題にて、（くれてゆく秋といはせの山風にもみぢかつちる音のさびしさ、）など見え。又吾等嘗て細川（男爵）十洲翁許に、翁の秘藏せらるゝ丹子の自筆なる自畵自贊の幅を一見せり、書も畵も歌も、皆拙からずして氣韻あり。さて又其兄藤兵衞は、同家に仕へながら、義に與せず、はた後難を懼る故にや、秀和に通ぜず、其弟喜兵衞他家に仕へて江戸に在しを、秀和とわかれしかども、兄藤兵衞より不通のよし言ひ送りしとて、是も對面せぬよし、秀和妻室への文に書て。「ぜひもなきお兄ごたちとぞんじ候、かやうの心にては、此方の成ゆきにて、そもじ殿も、かまはぬにてあるべく、彌〳〵便もなく、一分の働にての渡世、太義千萬にて候」など見えたり。かゝりしかは秀和同息秀富自書を賜へる後、思兼ねてや、數日にして刄に伏して沒ると云ふ。時に元祿十六年癸未六月十八日なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新世帯

近頃新家庭を作りし女子大學卒業生の談

私は女子大學を卒業致しまして後一年程經て、本年の春帝國大學文科の學生の方に縁附きまして、茲に新たに家庭を整へることとなつたのでありますが、夫は來年の卒業で、未だ親許から學資を受けて勉強中の身分でありますので、私の生活費まで夫に負擔して貰ふ事は出來ません、夫れ故私の腕に依つて私の身丈けは養ふて往かうと決心致しまして、種種職業を求めましたが適當な處がありません、其内に夫の親友の世話で或る所に職工として傭はれることになりました、海老茶袴を脫いで奧さん風の衣服に着替た時は、甚だ奇妙な心持ちが致しましたが、こゝに又其奧さん風の姿をやめて職工服と着替へた時の心持ちと申すものは格別で、嬉しいやうな、恐しいやうな、云ふに云はれぬ感じが致しました、殊に私の職務を執る場所は、日本に於て最も多くの女工を傭ふて居らるゝ所でありまして、數百人の職工が居る中へ、學校から出たばかりの私がぽつと飛込んで、職工を監督すべき役目を仰付けられ、故參にて老練なる監督者の中に交つて、最も年若き私が、果して職務を適當に執られ得るやと云ふことを自から危ぶんで居りました、併し手は熟練なる人の手程夫れ程克くは働けませぬが、精神丈けは敢て人後に落ちぬと云ふの決心で仕事に掛りました、始めの三ケ月程は全く見習の職務でありまして、古くから居る人に種々敎へを受けましたが、其間でも非常に親切に私を指導されまして、私は少しの苦痛も感ぜず此見習期間を過ぎまして、愈々本職たる監督の職務を執る場所に移されました、扨て本舞臺に出て如何であらうかと心の中に甚だ心配して居りましたが、幸ひなことには皆の職工が私の意見を能く容れて呉れまして、私の一擧手一投足に至るまで注目して、好意を以て迎へて呉れまして、只其足らざるを恐ると云ふの有樣であります、其一二の例を申しますと、私が車を輓きました、車を輓くことは私の職務であつて、私の職務を適當に行ふ上に就いて、何も珍らしき出來事ではないのでありますが、皆の人が彼の人が車を輓いた、彼の人でさへ車を輓くからと云ふので、如何なる職務でも執ることを厭はぬと云ふ風習になりました、又一人の職工が餘り衣服の着方が調はぬ爲めに、其調はぬ點を指摘致して改良を促しました處、翌日から自分の云ふた通りに直して、早く注意を受けなかつたのを怨むと云ふやうな有樣であります、其他言葉遣ひと云ひ動作と云ひ、段段に私に近寄つて來るかの如き感がありまして、豫て母校に於て習ふた人格を高尙にして、四圍を感化せしむると云ふ理想を實現する機會が到來したかと、これを樂しみにして仕事をして居ります。

仕事に對する興味は斯くの如きものでありますが、翻て新家庭に於ける私は如何かと申しますと、仕事を終へて歸るのが午後五時でありますが、門を踏出すと同時に夫が私の歸らぬ爲め晩食も喫せず待つて居るであらうと思ひますと、宙を飛んでなりと早く歸りたい心地が致しまして、歸つて玄關に着くと同時に終日立ちながら働くので、其疲勞の爲めに足が棒の如くなつて轉がり込みたい程でありますが、夫が私の手料理になる晩餐を待つて居ることを思へば、勇氣は再び回復して、火の粉一ツの用意さへない臺所に向ふにも、少しも厭いた、疲れたなど云ふ氣は出ず、私の思ふ存分な料理を調へて、夫と食膳を共にする時の其の愉快は、學校生活に於て又見ることの出來ない味ひがあるので御座います。

料理すべき材料は、私自ら買ひに出るのでありますが、最も無禮なる取扱を受けるのは八百屋であります、六七軒も買試みて見ましたが、何れの八百屋でも賣主と買主との位置を轉倒して居るやうであります、扨て料理其他形式上のことは理想通りに行ふことが出來ますが、精神上のことはなか／＼理想通り行ふことが出來ません、職工を自己に感化せしむることは出來ましても、夫をして自己に同化せしむると云ふことは困難であります、殊に婚禮の最初に於ては寛大に許されたる事柄も、追々に指摘せられて叱りを受ける、叱りを受けながらも尙甲斐甲斐敷く立ち働く積りではありますが、そこが人間の弱點でありませう、ツイ嫌な顏の一ツもすることがありますが、是等は畢竟するに經驗の足らぬ爲めと思ひまして、唯今では專ら其れ等の修養中であります。

奧羽土產（其三）

夫より妻への要求

ある人

私は妻を迎へて既に十年、子供も多數ある身分でありますが、私が妻へ對して要求する事柄は只一事であります、夫れは私が朝職務の爲めに外出する時の瞬間と、夕暮れ歸宅した時の瞬間とに、妻としての態度を最も善く整へると云ふことを要求したいと思ふのであります、何故と申すに、朝私が職務の爲めに外に出る時は、其日の爲す可き總ての責任を身に荷ふて出るので、最も心を淸く持ち、潔よく出ると云ふことが甚だ必要でありますが、其出立の瞬間に於て、若しも妻の顏が憂ひを帶びて居つたり、子供が泣いたりして居ては甚だ不愉快であつて、外に出て仕事をする上に於ても家を顧みることとなり、終日仕事が十分に運びません、况んや妻と爭ひ事などがあつて外に出た時は、尙更仕事に影響を及ぼしますから、妻たる者は其處を十分に注意して、毎日潔よく送り出すことが必要と思ひます、又夕暮れに職務を終へて歸つた時は、終日の疲勞を休めんが爲めに我家に戻るのであつて、十分慰安の心を以て其夫を迎へるやうにせねばなりません、且妻は終日如何なる事を爲しつゝあつたかと云ふことが、歸宅の瞬間に於て夫の眼に映ずるのでありますから、此僅な時間を最も大切嚴格に使用することが必要であると同時に、私は是れを妻に要求するのであります。

秋の小兒

ドクトル　川瀨元九郎

今は恰度季候の替り目で、ちよい／＼感冒患者が出來て來るやうになりました、倂て冬期中小兒が鼻加答兒や氣管支加答兒などに罹かる原因は、重に今の時に於て作られるのでありますから、今からこの點に注意することが肝要であります、依てこゝに少しく其の注意すべき點を擧げて御參考に供します。

小兒は皆な朝起きて、寢衣と着物とを取替へる時に、寒い／＼と云つてかじけますが、斯樣な場合に着物を煖めて着せることは宜しくありません、夫れよりは着せて遣る、即ち世話をする人が冷い手を以て全身を能く擦摩して遣る方が宜しくあります、是れは皮膚を丈夫にして寒さに耐へる力を增し、寒さを恐れない習慣をつける善き方法であります、着物を煖めて着せるのは、是れに反して皮膚を弱くし、一層寒さを恐れるやうになつて來ます、尙ほ手のある家庭なれば、手拭を冷水に醮して能く絞り、これを以て全身を迅速に強く摩擦し、夫れから乾いた粗い手拭にて摩擦して遣れば、非常なる効顯があるものであります。

次は入浴でありますが、風邪を引くのを恐れて、上る時に能く溫まつてから出す風習がありますが、それは宜しくありません、それが爲め却つて感冒に罹るのが多くあります、故に湯から上る時には、微溫湯を充分に灌ぎかけて、それから微溫湯よりも少し冷たき水を灌ぎかけ、其の上手にて全身を摩擦し、さうして粗き手拭にて能く拭き、皮膚の面を充分に乾かして後に着物を着せることにしなければなりません、浴後全身から汗が出るやうな工合では、湯冷めがして感冒に罹ります、又湯の溫度は、餘り熱くない方が宜しい、熱きに過ぎますと皮膚を弱くいたします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎理事會　十月中の理事會例會日取りは左の如し

十月十日（第二水曜日午後二時）

◎評議員會　十月中の評議員會例會日取りは左の如し

十月二十四日（第四水曜日午後二時）

◎評議員會　九月分は豫定の如く同月廿四日本部に於て開會せり出席者は近衞理事始め評議員小笠原秀子阿部篤子井伊常子尾崎八重子戶田時子東鄕鐵子小浦義子板垣絹子神山萬佐子佐方鎭子中山幸子濱尾作子山脇房子鳩山春子三輪田眞佐子三井壽天子山地謙子樺山登茂子內山訓子藤井とく子長岡芳子税所エイ子片岡たま子森村きく子關むら子松浦島子有島幸子清浦綠子古市幸子松平須磨子佐藤靜子佐藤猶子仁杉歌子渡邊いね子三井榮子三井照子波多野爲子高木富子の諸氏にして奧村刀自に贈與金其他數件を議決したり

◎特別救護實施に就て　去月二十六日開會の評議員會に於て左の二項に該當する者に對し一ヶ年三拾圓以上救護の件を可決し是れを各支部へ通牒したり左れば各支部長及び顧問に於ては事實を查覈し本會救護法に適せりと認むる場合には會長に稟申して許可を得らるべし

一、現今現金救護は一人に付一ヶ年金三十圓に超過すべからざることゝなり居るも生產資本補助の必要上三ヶ年分迄を一時に取纏め救護を實施することを得

二、生計程度調查書の丙丁に當るものにして其遺家族學資を要するものは其事情に因り救護金を（幾年分を疊みて之を支出するも可なり）支出することを得

◎失明軍人の學資　各支部より準士官以下の失明軍人を東京盲啞學校へ派遣するときは卒業學期間の學資は凡て本部に於て負擔することゝなれり

◎秋田支部第一回總會

本會秋田支部第一回總會は去月十九日秋田市公會堂敷地內に於て擧行せらる開會に先ち會するもの三千九百十一名に及びぬ　總裁殿下には御用掛鍋島業子氏を隨へ馬車に召され之につゞいて伯爵夫人酒井夏子氏跡見花蹊氏腕車にて隨行し、午前九時三十分公會堂に成せられ門前に於て清野支部長始め支部幹事部の人々の出迎を受けさせられ貴賓室に於て暫時御休憩此間に文武高等官及支部職員に謁を賜ひ、午前十時清野顧問御先導にて式場に成せらる式壇には四間四方の假殿を設け左右及び前面に階段を設け婦人會徽章入りの紫色の幔幕を張り渡し天井板敷とも白布を以て覆ひ柱は紅白の布を以て卷付け式壇の右方正面をば遺族癈兵及び勳功者席となし正面を佩有功章者席左方を來賓席とし其他を會員席となせり、第三鈴にて清野顧問は參列者に向ひ開會の旨を陳べ次に三十七八年戰役に關し本會に賜はりし御令旨を捧讀し次に總裁殿下より左の御諭旨を賜はる

愛國婦人會秋田支部は會運頓に振興し茲に其第一回總會を開くに當り諸子と親く相見るは智惠子の誠に喜ぶ處なり今や戰役の後を受け本會の責任彌々重く事業の前途尚ほ遼遠なり會員諸子一層奮勵して同心協力以て本會の目的を達せられんことを望む

明治三十九年九月十九日

愛國婦人會總裁　載仁親王妃勳一等智惠子

右に對し支部長は左の如く奉答せり

本日を以て茲に我愛國婦人會秋田支部第一回總會を開くに方り畏くも　總裁殿下御臺臨あらせられ優渥なる御諭旨を賜りたるは當支部の最も光榮とする所なり自今職員と共に益々奮勵し會務の擴張を圖り以て御諭旨に副ひ奉らんことを期す謹て奉答す

明治三十九年九月十九日

愛國婦人會

秋田支部長　清野クニ子

次に沼澤支部副長會務幷に會計報告を爲し夫れより酒井評議員岩倉會長の祝詞を朗讀せられ清野顧問左の祝詞を朗讀せり

本日を以て愛國婦人會秋田支部第一回總會を開くに方り畏くも

總裁殿下の御臺臨を辱うし優渥なる御諭旨を拜受す支部の光榮何ものか之に加へん

惟ふに我秋田支部創立以來爰に年を閲すること六而して會員の數漸を逐ふて增加せしも尚本年四月現在に依れば僅々三千八百九十八名に過ぎす會勢未た以て振へりと云ふを得ず爲に第一回總會を開かんとするの計畫漸く熟するを待ち

總裁殿下の御臺臨を仰ぎしに今や幸ひに御許容あり爾來遠近競て會旨を傳へ支部職員亦鞠躬努力其擴張の業に從事し會勢頓に振ひ新に會員に列する者八千餘名の多きを致し支部の活氣中外に充溢するの觀あり斯の如く期月の間に其會員三倍以上に逾し志士仁人財を捐し資を出し本會の事業を翼賛する者亦數百名の多きに及ふ是一に

總裁殿下御盛德の餘光に由らすんはあらず不肖長太郎乏を顧問の要職に承け支部職員と共に感奮措く能はさる所なり

抑愛國婦人會は我國唯一の全國に亘る婦人團體にして其目的とする所は軍人遺族を救護し癈兵を慰藉するに在り帝國空前の大戰役に膺り後援の業猶く擧り戰役終局後畏くも

皇后陛下の御令旨を奉戴し本會の面目中外に發揮せらる顧ふに我秋田支部は戰時各其報効の途を圖りしも會員少數にして支部の基礎未た鞏固なるを得さりしが爲事志と違ひ遺憾尠からす而して我秋田縣出身の健兒は曾て黑溝臺の激戰に參加し奉天の大戰に於て砲煙彈雨の際隆暑酷寒の艱困苦備さに嘗め戰死病沒せし者千四百四十九名而して負傷の爲め癈兵となりし者亦五百餘名を下らす思ふて茲に至らは我秋田支部は將來益其基礎を鞏固にして進んで是等遺族癈兵の慰問救恤の業に當るべきの責任實に重大なりと謂ふへし今や第一回總會の開會に際し會勢頓に振ひ本日の盛況を見るに至りしもの一に僻陬を厭はせられず親しく

總裁殿下御臺臨の光榮を賜りたるに依る長太郎等感激恐懼の至りに堪へず爾今一層奮勵努力以て會務の擴張に從事し更に邦家の爲め報效の途を圖らんことを期す茲に謹て蕪辭を述へて祝詞に代ふと云爾

明治三十九年九月十九日

愛國婦人會　秋田支部顧問　清野長太郎

次に馬淵山形縣知事は來賓總代として祝辭を陳べられ是れより一等有功章二等有功章三等有功章（總代一人）に御親授あり清野支部顧問は階下にて三等有功章を個々に授與し總裁殿下には遺族總代及び癈兵總代に恩賜金を授與され夫より岩倉會長より遺族へ慰藉の御傳言ありとて酒井伯爵夫人は遺族癈兵席に向ひ歩を進められ清野顧問をして慰藉の辭を代演せしめられ是れにて式終り會員及び遺族癈兵は各々紀念品を受取り散會せしは正午なりし當日賜金を拜受せし遺族數は七百八十二人癈兵二十人なりし

◎北海道支部第一回總會

本會北海道支部第一回總會は豫報の如く九月廿三日午後一時より農學校附屬博物館構內に於て開催されたり開會に先だち來會するもの三千八百人に及びぬ總裁殿下御名代として評議員子爵夫人伊東美津子氏は高木柳谷兩評議員を隨へ入場し支部長式を擧ぐる旨を通告し直ちに會員名簿を捧呈し伊東子爵夫人は殿下御名代として左の御諭旨を朗讀せらる

愛國婦人會北海道支部は會員益々增加し會務亦整ひ茲に其第一回總會を擧行するに及べるは智惠子の大に喜ぶ所なり今や戰役の後を受け本會の責任彌々重く事業の前途尚遼遠なり會員諸氏一層奮勵して同心協力以て本會の目的を達せられんことを望む

明治三十九年九月二十三日

愛國婦人會總裁載仁親王妃智惠子

次に大塚支部長は左の如く奉答す

茲に愛國婦人會北海道支部第一回總會を開くに當り畏くも　總裁殿下には特に伊東元帥夫人を差遣され　總裁殿下には優渥なる御諭旨を賜はる當支部會員一萬五千餘の光榮之に過ぐるはなく當支部が三十七八年の戰役に際し聊か奉公の誠を致し大過なきを得たるは偏に殿下の御盛德に依るものにして感激の至に堪へず自今益々同心協力以て本會の擴張を圖り御諭旨に副ひ奉らんことを期す謹て奉答す

明治三十九年九月二十三日

愛國婦人會北海道支部長　大塚富世子

岩倉會長の祝辭は高木評議員朗讀し夫れより米倉ヨシ子外十名に有功章を授與せられ次に遺族總代志田ヨネ氏癈兵總代天日熊太郎氏に恩賜金を賜ひ次に園田顧問は左の祝辭を陳ぶ

誰か云ふ女子に軍國の務めなしと昔士風の盛なりし時には女子の心か自ら男しく男子の出陣を勵まし時には夫と共に戰に臨みし烈婦さへ少なからざりき扨て愛國婦人會か去る三十七八年の戰役に際していとも著るしき功ありしこそ今は更めて之を云はじ抑も本會あるに依りて始めて我國の女子は今の如くに數多軍國の務に與るに至りしなりこれそこの會が御國の爲め行末永く必要なる所以にて別けて喜ぶべきことにぞある今茲に我が北海道支部の第一回の總會を開くに當りて辱くも　總裁閑院宮妃殿下には特に伊東元帥夫人を差遣されいとも優渥なる御諭旨を下し賜はろ之に集まる人々誰かは感奮興起せざるべき惟ふに國と國との交りは何時如何なることの行違るより再び國家の大事を惹起さんも豫め料り知られずあはれ人々今より心の限り力の限りを此會の爲めに盡して　殿下の御諭旨に答へまつれ更に一旦緩急あらは古の烈婦の心を心とし彼の棺に載せられて還らずは寧ろ潔く打死せよとその愛子を勵ませしスパルタの賢母にも越していとも雄々しく振舞ふへし今日の盛典に連なり感激に堪えず因りて聊か思の程の述へて祝詞に代ふ

明治三十九年九月二十三日

愛國婦人會北海道支部顧問

從三位勳二等　園田安賢

來賓總代として佐藤農學博士祝辭を陳べ祝電を披露し奏樂の內に支部長閉會を告げ更に伊東評議員は會長よりの旨により遺族癈兵に對し慰藉の言葉を陳べ一同有難涙にくれ午後二時三十分退散せり當日の遺族癈兵來會者は四百八十四名なりし

◎在獨逸玉井喜作氏の訃　同氏の訃音に接し會長より左の弔詞を送らる

佩二等有功章玉井喜作氏獨國滯在中其業務ノ繁忙ナルニ拘ハラズ常ニ本會事業ノ擴張ヲ援助セラレ入會員募集ニ寄附金勸誘ニ着々効果ヲ擧ケラレシ事接指ニ遑アラズ一朝不幸ニシテ病ニ罹リ藥石驗ナク遂ニ不歸ノ客ト爲ラレシヲ聞ク實ニ痛歎ニ堪ヘザル所ナリ爰ニ本會　總裁殿下ノ稟聞ニ達シ肅ミテ哀悼ノ意ヲ表ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獅子のはなし

獸醫 入江濤吉

世界にありとあらゆる動物の中で、一番性質が猛惡で、一番力の强いのは獅子であります、されば獅子は百獸の王とさへ云ッて、一度哮れば何んな獸でも皆な怖毛を立てゝ逃げることさへやうしないと云ひます、夫れも其の筈、尻尾て一ッ撃つと、馬の脊柱てさへ折れ挫けてしまうと云ふのでありますから。

淺草の花屋敷に牡牝二頭の獅子の居ることは皆さん御承知で御座いませう、アノ獅子は新嘉坡から來たものでありますが、正しい書類がないので確な年齡は分かりませんが、總て動物の年齡は下顎の前歯の摩擦面に依ッて知ることが出來ますので、是れに依ッて想像しますと、牡の方は八歳、牝の方は七歳位ゐと考えられます、併し他の動物の歯を見るのは容易てありますが、獅子は猛獸だから歯を見ることがなか〳〵困難て、哮る時口を開くのを待ッて居て、注意して見るより他に策——方法がないのであります。

最初新嘉坡から來たての時は、檻の内に手を差入れて頭を撫てる位ゐのことは出來たのでしたが、居所を替へる度毎に性質が暴くなッて來まして、時には棒をもッて追ふやうなことがあります、そんな時には格別暴力を逞しくして、人間に抵抗します、私共が獅子の病を治療する時は、獅子の檻の硝子戸内に入ッてするのてありますが、牡の方よりは牝の方が餘程意地が惡く、出入に注意して居て、今にも飛びかゝらんず姿勢をいたします。

獅子の生れたては、宛然毛の長い猫に似て居ります、子は生れると一週間母獅子に附けて乳を哺ませますが、一週間後は放して犬の乳母に附けるのであります。

獅子の子の乳母になる犬はボルドー種とマスチーフ種とブルドオクの血を混へた、普通の犬の王で、八十ポンドから百ポンド位ゐもある大きな犬であります、それですからこの犬を怒らせないやうにしないと、充分に獅子の子に乳を哺ませることが出來ません、要するに乳母たる犬に自分の乳を哺ませるものは自分の子であると云ふ考えを抱かせねばなりません、自分の子であるか否かは、眼て視て知るのてなくて、鼻て嗅いて知るのてありますから、夫れを利用して乳母たる犬の乳を搾り取ッて其の乳を獅子の子の全身に撒布ける、すると犬は獅子の子の全身を嗅いて見て自分と同一の臭氣があるから自分の子だと思ッて乳を哺ませるのであります。何故一週間位ゐて母獅子から放して犬の乳母に附けるかと云ひますと、夫れは一週間以上も附けて置くと、母獅子が怒ッた時に喰ひ殺すからてあります、次に犬の乳を哺ませることも亦た二週間位ゐて止めさせて、後は牛乳を哺ませるのであります、何故に二週間位ゐて止めさすかと云ふと、それは三週間以上も犬に附けて置くと、其内には子獅子が成長して、乳母を咬み殺す憂ひがあるからてあります、何んと云ふまア恐しい獸てはありませんか。斯様に猛惡な動物てはありますが、人間の智識には敵ひませんて、伊太利邊ては獅子を猫の如くに馴れさす人がある、其の方法はなか〳〵面白いが、餘り長くなるから又た機會を見てお話いたすことに致しませう。

菊日和

三島霜川

みなさん、こんな好いお天氣の朝に、こんな日當りの好い箇所で、こんな事を云つて遊むで居るお子等は、幸ではありますまいか。田舍の子と謂ひますけれども、此の田舍の子こそ、天然の中に、美しい夢を見てゐるのではありますまいか。門の小川で顔を洗ふといふことは、何んだか野蠻のやうに聞えますけれども、まア、その小川の水は、どんなに奇麗でございませう、それこそ、水晶のやうに透明つてゐるのでございます。兩人が、旭の、ぱッと輝ゐている菊畑に立つた姿はまるで、繪に描いたやうでございます。

菊ちやんは、菊畑を拔けて、小川の端に立ちました。其間に花ちやんは、來る道で取つて來た笹の葉ッぱて、笹舟を作えてゐました。それに菊の花瓣を撮つて載せて、それが、お荷物になるのでございます。

菊ちやんは、川端の一本柳の下に立つて、顔を洗つてゐました。水底には、大根の切屑、菜ッ葉皿の碎片、または蕪の小いさいのだの、柿の腐つたのなどがちらばつてゐて、鍋も一つ沈むでゐる。

菊ちやんは、自分の像も、はつきりと水底に映つてゐて、ゆら〳〵と搖くさゞなみの加減で、歪になつた自分の顔が、餘程妙に、不思議に、へんちきりんに見えるので、菊ちやんは獨で可笑しくなつて來た。そこで踞むで了つて、頰杖をついて、じつと水底をながめて、眼と口を大きくしたり、あかんべえをしたり、泣顔をしたり笑顔をしたり、さま〳〵の眞似をして可笑しがつてゐると、だしぬけに眼が暗くなつた。不意に後から冷い手て、兩方の眼をひどく緊付けられたものですから、

「お止しなさいよ、お止しなさいッたら……、あら、危ないわ……危なくッてよ。」

「誰アれ?……」

と作聲をして、くす〳〵笑つてゐるのは、花ちんてございます。

「知つてゝよ、花ちやんだわ。」

と身悶して、力委に頭を振ると、閉ぢられた手がはらりと除れて、

「ばア!」

と肩先から、花ちやんの顔が出る。鏡のやうな水の面には、二人の顔が、くつきりと映つた。

菊ちやんは、むッと頰を膨らして、

「花ちやん、酷いわ。だつて、危ないおやありませんか。」

「あら! 慍つたの、かんにんよ、ね、かんにんして頂戴な。」

「だつて……」とくぎつて、「あたし……」とまた、くぎつて、「びつくりしたんですもの、ほんとよ。」

花ちんは、しよげて、

「でも、あたし、じようだんにしたんだわ。」

と帶の間に挾むでゐた笹舟を取出して、御機嫌を取るやうに、「これ、あなたのも、作へて來たのよ。流して見ませうか。」

菊ちやんは、それて、すつかり御機嫌がなほつた。

「え!」

「さ。」

とばかり、兩人は、かゞむで、白い腕をまくし上げながら、菊ちやんの方から、

「可くつて?」

と聲を掛ける。兩人一緒に、

「一い……、二う……、三い……。」

と謂つてゐるかと思ふと、笹舟は、兩人の指から離れて、つ、つ、ついと、さゞなみにゆられながら流れて行く、三間ばかり下流の堰のやうになつたところまで行くと、何うした機だつたのか、花ちやんの船が、ひつくり返つて了つた。

「あらッ……」

と兩人顔を見合はせて、

「あたし、負けたのね。」

と花ちやんは、つまらないやうな顔をした。菊ちやんの船は、何處までも流れて行つて、やがて見えなくなつて了つた。

村の中だけれども、遠くの方で、鷄が啼いてゐた。

花ちやんの、つまらないやうな顔をしてゐるのを見て、菊ちやんは、氣の毒でなりませんてした。それて

「あなた、あたしに、好い舟を下さいましたのね。だから、あたし、お禮に、菊を進げてよ、あなたの、好なのね!」

花ちやんは、にっこりして、

「あたし、白いのが好いわ。」

とさつ〳〵と菊畑の方へ歩み出した。菊ちやんも、後に、つゞいて行きました。

菊畑へ來ると、

「あれが、可いのよ。」

と花ちやんは直に、目立つて大きな輪の白い菊を指した。

「これ……」

と菊ちやんは、惜氣もなく一本へし折りました。

菊は、ばら〳〵と水晶のやうな露を零して、きら〳〵と旭に光りました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

兩人の少女等は、朝のうちは此うして、お家の畑またはお庭て遊んで、それから時間になると、村の學校へ行ッて、さて歸ッて來ると、お祖父さんまたはお祖母さんに、面白い昔噺をして戴いて、菊日和を面白く暮してゐるのでございました。こんな少女さん等は、眞ンとに幸な身分ではございますまいか。(をはり)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

葉ずれの音

松原至文

○

都は秋立ちたり、霞が浦の蘆の花、白き帆、舟歌、波に落つる筑波の影はいかならむとすらむ。

麻生の天王崎の松、健在なりや、否や。潮來の稻荷明神の大松、例によりて風を劈いて筑波の水に臨めるや否や。周圍七十幾里の水村、到るところに霜の氣、朝な〳〵置きて、夜は鳥雁の聲、馬掛の嶋より起るを聞くなるべし。又秋風に翼を揚げて、白鷗を逐ふて天涯に飛ばゞや。

○

小徑の葉末に置きたる露の玉の、嵐に散り布く世のはかなさや。

この頃故郷より朝顔の種子を贈り來れり。おゝ、曉風水の如き朝な朝な、我が机の畔に、やさしき夢の如き花をつけて、我を慰めたりし彼の蔓の、早や此の淺ましき黑粒と化して百三十里を飛び來りしこと。かくて明日の我はいかならむとすらむ。

○

昨夜恐ろしき夢を見たり。驚き醒めて戸を啓けば、庭は淺ましきまでに柿の落葉して、小枝を透きて覗はるゝ空は、雨雲や、灰色の屯ろ恐ろしくうづまき亂れて、混沌也。

妹よりの手紙を見れば、井戸畔の柿の枝、夜半に村の若者に盗まれたる由、梢に紅く熟れたるを玉と聯ぬる至寶の一枝、これのみは長く殘して、わが歸省の時をと俟ちたりしならんを。

○

雁來紅に雨しよぼ〳〵とかゝれり。雲すこしちぎれて、靑空、床しき日の光、雨のやう洩れ來る。

夕暮の光はそこはかとなく庭の隅々、木の葉の蔭に動ける如し。中閾に腰かけて念佛し居れば、風漸ら寒くして秋心に充つ。

○

山路をかざる花のいろ
峯に照りさふ日の光
谷間にかほる木の匂ひ
さゝら波立つ風の影、
薔薇をいろどる奇しき綾
吾等のやすむ木したかげ
そのうるはしさ、新らしさ。
みなとことはに變りなき
神のみ惠み
ならざるはなき

（アノン『神のをしへ』）

○

今日にて彼岸も了らんとす。恐ろしき風雨の氣勢は晝すぐるよりやみて、小雨柿の葉にはら〳〵す。裏戸あけて出づれば武藏野の、森や林や、風ゆくと見えて搖らぎつゝ、雨過ぐると見えて朧ろげになりつゝ、秩父の方に夕日沈むと見えて、雲の色やゝ赤うなりぬ。

穗波よ、年々、此の灝氣の水の如く天より落つる秋を俟ちて、山は紅葉に、野は農夫が歡喜の聲に打ち寄する、汝こそ、夕陽暮雲、金色の波がしらよ。

▲秋の夕　東京　岡田はる子

何處も同じとか詠れしもかゝる折にやと思ひ合されて、げに秋の夕こそ淋しくはた悲しきものなれ、ふり續きし雨に稍うつろひし萩の花のそよふく風にはら〳〵と露ながらこぼるゝも哀れなるに、あるかなきかの蟲の聲、そこともわかず聞ゆるなどいと心細しや、さはれ去年迄はかばかり淋しとは思はざりしを、あゝ懐しき君のみたま今はいづこ。

なき人を忍ぶ袂におく露を
　ふきな亂しそ秋の夕風

▲選者曰　秋思哀思交々輳る

▲秋色　大阪　富永才子

金風徐ろに露をふいて早稻田に案山子の影見ゆる此頃、阿部野あたりの景色こそ面白けれ、見渡せば生駒、葛城の諸山遠く横はりて、そこゝに秋草の咲亂れたる風情えもいはれず、萩のやさしき、桔梗の艶なる、花すゝきの風に靡きたる、賤が垣根に朝顔の花小さく咲き殘りたる、など、とり〳〵におかしからぬはなし。

▲選者曰　秋色模樣の織物の如し

▲休暇の内面　埼玉　森田竹子

三時の物出來ぬとの報傳はるや、己先づ弟妹從弟妹總計七人の我鬼大將となりて、たゆき針の手を置きて立てば、數學に英學に餘念なかりし勇士達我劣らじと滔々と板の間を蹈み鳴らしてぞ走せ行く、中陣に書見せる父は首を擡げ、偖も五月蠅者共哉、食物とし云へば宛然鼷鼠の如と顰め給ふ眉の中にも笑は溢れつ、此の不意討に流石の勇士連面見交はして搖蕩ふ樣の可笑しやゝ

▲選者曰　活寫眞とや云はん

▲涙痕錄　鎌倉　中隈富士子

我が知れる心はえいと美しう、御顔形ちも人並優れ給へる姫君の、四十日が程前より重きなやみに今はいとゞ弱らせ給ひ、あすをも知れぬ命ぞとそが父君の涙ながらに語らせ給ふ、我も一とせ餘りの今日迄幾度か同じ思ひに父母君が御心なやませ參らせしかと、今更身の毛のよだつを覺えぬ、咲きて〳〵遂には自ら散るものを、など病のつれなきよ。

▲選者曰　低徊涙あり

山鳩

佐々木信綱

石をひき土をはこびて村人か
　いそしみ建てし師の君の家
黃はみたる豆生の畔のもちの木に
　山鳩うたふ夕つく日かな
かへりみれと都は見えす四の緒の
　袖つめたし馬の上の月
庭鳥もいまたうたはす遠浪の
　音かすかなる秋の寢覺や
見おろせは見ゆる吾村吾家居
　いつか又見むこゝの木蔭に
長閑にも流れゆく水荒波の
　荒き中にや入らむとすらむ
七つ八つつなき連れたる牛追の
　寒さちまたを行く夕へかな
かしましきちまたの聲を聲として
　ひとり靜に書をよむ哉

▲折にふれて　東京　四屋保子

「としよりの方、をんなの方、こどもの方にはなるべく腰をかけさせて上げて下さるやう」と書きて掲げある電車中の文字、いともやさしうあたゝけき言葉かな、世の中はいつも春風の吹くがごとく樂しくわたられましを。

▲選者曰　時に乘車賃値上の騒ある苦々しき限也

▲形見の衣　静岡　伏島たゞ子

はや單衣は不用なり、衣の入かへせんと土藏に入りて、簞笥ひきあくれば、ふと目につくお召の袷、あゝこれぞ懐かしき母の形見なりける、つひ先年まで、縞柄じみなりとて、しまひおきたる此の袷、今縫ひもなほさて身につけたりとて、誰かあやしまん、母は己が今の年には既に此の世に在まさゞりしなり、あゝ。

▲選者曰　感慨深し

▲ふる郷　兵庫　山本榮子

昔仲麿がもろこしに月をながめて「天の原ふりさけ見れば」と吟じ、能野が東山の櫻狩に「都の春もおしけれどなれし東」と詠じたる、みな故郷を思ふの至情なり、あはれ嵐山の花、比叡の雪、いかに美なりといへどもいかでか我故郷の眺にかへらるべき、我家の樂しきは旅寐の憂を味はではさとりがたし。

▲選者曰　少しく陳腐

▲述懐　福岡　松村戀賀子

秋の夜は野邊の草葉の露毎に月をやどせる蔭より、ふしおもしろき蟲の聲、あるは朝霧深う立ちこめたる細道に、鍬擔ぎたる賤の男の姿幽に見ゆるなど、草深き田舍にも折々の景色に深き趣あり、かゝる折にこそ歌讀み文書かんなど思へど、如何にせん、詞も筆もいたらぬを。

▲選者曰　是れ丈の文藻あれば結構なり

▲申上げ候▼

御約束の繪ハガキは規定の如く公平なる抽籤法に依りて去る一日より順次申込諸姉の許に送りまゐらせ候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

商品目録定價表
御申越次第送呈

意匠斬新
くし、笄、かんざし
リボン、ヘーアピン、
サイドコム

美術小間物商 三ツ井屋
東京市神田區須田町十番地
電話本局二〇七六番

支店 (神田神保町東明館内 新橋ぎわ博品館内)

尚又 五二會にも種々出品陳列仕置き候間何卒御光覧奉希上候

文學士 淺井虎夫著 (新刊)

女官通解

洋裝菊判全一冊●定價金七十錢●郵税八錢

九重の雲深きわたりに仕へ奉る女官に付ては容易く窺ひ得られざるを本書はあらゆる女官の沿革と職掌とを國史儀式日記物語等によりて廣く考へ合せいと〻明了に書きたれば此等女官奉仕の有様をいと詳に知るを得べし例へば今の典侍掌侍を始として古の女房(上臈中臈下臈)命婦后宮十二司女藏人釆女齋王巫女女孺女史舞妓の如き一々實例を擧げて説明せられたり苟も有職故實歷史文學に志ある人は必備の要書なり

發行所 東京日本橋區樽正町 京都御幸町姉小路北 五車樓

二八水は進歩せし化粧水の隨一なり
效能は世間已に定評あり

花王石鹼本舖
東京馬喰町
長瀨富郎製品

美術貴金屬袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
長電話浪花二五六九番

眼科專門
診察時間(午前九時ヨリ十二時 午后三時ヨリ五時迄)
神田區連雀町十八番地郵便局前
ドクトル 宇良田唯子
●毎月第一日ハ診料藥價共無料

皇太子妃殿下賜上覽
作文練習雜誌
女子文壇
毎月一日發行●價見本十戔 半年七十六戔
東京京ばし大鋸町 女子文壇社發兌
口繪に三宅氏の水彩畫と繪葉書販賣寫眞數葉
二卷拾三號 十月一日

ケーバ香水
●小瓶廿五錢 ●大瓶壹圓

來る十九、廿日惠比壽襟賣出粗景呈上仕候
半ゑりハ神田ゑりの半ゑ限
出店 新橋博品館階上
本店 神田表神保町一番地 電話本局二八五三番

眼科 一般特に美貌に關する手術(八王子病院從前通)
斜視(すがめ一名やぶにらみ)
畑眼科院
院主特長技術 牛込市ケ谷田町三ノ廿(外濠線新見附側)
手術成績の寫眞標本は隨時一覽に供す

新療法
花柳病 梅毒横痃淋病下疳
肛門病 痔疾新注射速治法
夜間 午前
東京牛込横寺町二十八番地
杉田醫院 院長 杉田武義

●九月一日迄にクラブ洗粉の販賣店は各地を集めて數千軒の多大に上る
●新聞を見る婦人にして未だクラブ洗粉を使はれぬ人が在るでしよか?
●信用ある化粧品屋に未だクラブ洗粉を賣られぬ店が在るでしよか?
●常用貴婦人令嬢諸氏の需用數により算出せば已や卅八万人以上となれり

總代理店 帝國化粧品倶樂部 中山太陽堂

製造本舗 東京兩國橋際元町 壽美禮堂謹製

●壽美禮あらひ粉●
定價 緑繭紅彩蝶紋の鑵入 六錢五厘 一袋 ボックス入 三錢
壽美禮洗粉は朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌への色を美しくなす又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を漂白する性あり

五二會品評會功勞銅牌
THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
ヴアイオレツトペースト製
乳白硝子器入 附 鍋鑑 壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい●
●すみれ白粉は歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成蹟體等を以て調製しあるを以て肌を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり
ねりおしろい定價(大壜二十錢 小壜十二錢) 水おしろい定價(大壜廿五錢 中壜十五錢 小壜十錢)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大口鯛二氏選　秋冷

天
秋風の身にしみそめしあしたよりちひさくなりぬあさ顔の花　東京　岡田春子
▲評曰　情景離れ寫して聲調凡ならず

地
鴉鳴く森のあなたに月見えて道行く少女袖さむけなり　函館　五十嵐やす子
▲評曰　畫趣あり

人
古里に母をのこして初旅の身にしみ渡る秋の夕風　福岡　松野操子
▲評曰　故郷有母秋風涙の意にて珍らしき思想ならねど只初旅の一語によりて生氣あるを覺ゆ

佳調

○朝戸出の庭の萩原露ちりて袖うら寒き秋風そ吹く　東京　鈴木菊子
○故郷の母やいかにと思ひれのまくらつめたし秋雨の音　東京　藤田あつ子
○秋風にはたへつめたきこの夕母の許より衣は届けり　青森　茂呂その子
○桐の葉の一葉二葉と思ふ間にはや身にしみぬ窓の秋風　北海道　四久子
○おく露のしけきに秋そ知られける身にしむまての風は吹かれと　東京　土師利根子
○難波江のあしの葉そよく秋風の身にしむばかりはやなりにけり　岡山　森島古野
○朝戸出の風うらさむみ朝顔のおす咲く花もつくる秋かな　群馬　木暮千代子
○衣うつ音も遙に聞え來て秋ひやゝかになりにけるかな　埼玉　森田竹子
○賤の女かとき洗ひ衣ぬはなくにはやひややかに秋風の吹く　靜岡　彦坂清子
○夕鴉友呼ぶ聲もあはれにてさむさ身にしむ秋風そ吹く　長野　高橋きよ子
○小山田の鳴子にひゝく秋の聲身にしみ渡る心地こそすれ　岡山　貝原わき子
○秋の雨きのふも今日もふりくらしにはかにさむくなれる風かな　千葉　濱野米子
○園の露ふけてのこれる月見れは萩の上風身にそしみける　廣島　富樫つる子
○庇うつ木の實の音の聞えつゝ旅寐する夜の床の冷たさ　東京　上野芳子
○なさな子に布子きせけり小雨ふる夕へはさむき秋の山里　三重　諸戸常子
○古里のたよりやいかに草枕風の身にしむ秋の夕暮　三重　庄司種子

甲

○おもかりしひとえ衣も今朝ははやかされまほしく風そ身にしむ　神戸　乾榮子
○秋ははや立にけらしなさし櫛のあかつきおきの風そみにしむ　宮崎　秋元はま子
○桐一葉二葉とちりて吾宿に秋のさむさを知りそめにけり　岡山　仲田磯子
○おとなしくふすまかつきてうなゐ子も枕につきていぬる夜半かな　函館　日向克子
○夏衣またかへなくに今宵しもやゝはた寒き萩の上風　岡山　寺松政子
○八千種の花野の露をわけ行けば秋のあしたの風そ身にしむ　岡山　貝原壽惠子
○きのふけふ單衣の袖の薄寒くおほゆるまての秋となりにき　岡山　武田須磨子

○おのか手になれし扇はわすられて身にしむはかり秋風そ吹く　山口　末田竹子
○露ふかき淺茅か原をわけ行けは衣手さむし秋の初風　仙臺　渡邊作子
○いつしかと秋も半になりぬらし風ひやゝかに吹き渡るなり　京都　難波眞久子
○すゝしやと野にまちうけし朝風の身にしむまてにはやなりにけり　兵庫　中村益子
○昨日まて涼しとめてし夕風の肌に冷ゆる秋はきにけり　京都　山本靜江
○露しけき野邊の小路をわけ行けは身にしみ渡る秋の夕風　新潟　阿部秀子
○秋たちて衣手さむし心していてや今よりわきをはけまん　三重　小島駒子
○蚊遣する烟も絶えぬ山里は衣手さむくなりまさりけり　京都　古川よれ子
○いつのまに秋はきにけんひやゝかに身にしみそむる軒の松風　秋田　細谷はる子
○庭の面の萩の下葉に露おきて風ひやゝかになりにける哉　靜岡　清水はつ子
○虫の音も枕にちかく秋の夜はさし入る月の影そ身にしむ　福岡　松村壽賀子
○さしひさは秋のならひとなく虫の聲も身にしむよはの風かな　神戸　宇野類子
○うす衣またぬきかへるこの夕あやしく袖に風そしみける　函館　瀧岡とし子
○虫宿る庭の小萩に露見えて風ひやゝけき秋の曉　大阪　富永才子
○袖かきに衣させてふこふろきの聲ひやゝかになれる秋かな　岡山　江田道子
○我背子かまなひの窓はいかならんはたへさひしき庭のあらき山風　山口　荒瀬千勢子
○そよと吹く萩の上風身にしみて衣手さむし秋たけぬらむ　東京　山口理勢子
○かろしとも身にしらさりし蟬の羽の衣手さむくなれるころかな　山口　末田貞節子
○打寄する波のしふきも身にしみて秋風さむしすまの夕くれ　埼玉　水野淑子
○たひやかたゝ夕風寒しあはせ衣もてこさりしそうらみなりける　群馬　伏島たき子
○とふ人のまれなる山のおくまても秋は來ぬらん風のさむけき　青森　鈴木安子

乙

○桐の葉の一葉みたれて今朝よりは衣手さむき秋の初風　仙臺　渡邊道子
○衣うつ音もきこえて秋の夜は衣手さむくなりまさりけり　山形　阿部さゐ子
○天の川流れて早き秋風にあさの衣の袖さむきかな　東京　爪生保子
○いつのまに秋は來にけんあさな夕なの風の此頃は身にしむ　青森　田島正子
○山里は月に砧を打かはし秋の夜さむをおとつれぬらん　島根　江角倭文子
○程もなく秋の夜寒となりにけりたへぬ暑さは昨日と思ふに　島根　江角せい子
○うたゝれにまとろむ夢はさめにけり立つ秋風の身には寒くて　靜岡　萩原さだ子
○草枕旅路の夢のさめやすくいとゝ身にしむ秋の冷めたさ　東京　江東靜子

丙

○朝な〳〵草葉における露見れはやゝ肌寒き心地こそすれ　横濱　小島京子
○朝顔の花もはかなく桐の葉をさそふ朝風身にそしみける　東京　龜井昭登子
○都にも蟲の聲々しけくして肌さむけき頃となりにき　東京　小島幹子
○いつの間に野山の草木色あせて風の身にしむ秋となりけん　愛知　藤井竹子
○秋たけて千種の花も蟲の音もさひ果てにけり霜はおかれと　三重　市橋幾子
○つゝれさせかみこさせてふ蟲の音もさひしさ添ふる今日にもあるかな　京都　松宮春子

> 募集歌壇ます〳〵賑ひ、投詠實に數百首、こゝに於てか從來の
> **大口鯛二氏**
> の外にまた更らに歌壇の明星
> **佐々木信綱氏**
> に選評を請ふことゝなせり、諸姉乞ふ舊に倍して投詠あらん事を

○川に野にあそへる子らもいつしかと家にしたしむころとなりぬる　函館　安藤喜美子
○朝な夕なあきかせさむく身にしみぬあらひしころもとくも縫はゝや　東京　長鹽錠子
○月さえぬつゝれさせてふ蟲の音もあはれを添ふる岩倉のさと　京都　松宮菊枝
○嬉しけに稲とり入るゝ賤の女か秋すゝしく秋風の吹く　京都　渡邊豐子
○秋風のたちにし日よりしみ〳〵とますら武夫の痛手をそ思ふ　宮崎　山下武眞子
○いつしかとふけ行く秋もしられつゝ吹く朝風の寒くもあるかな　京都　磯谷澪子
○朝ことにしけく置き添ふ露見ても衣手さむき心地こそすれ　青森　佐藤楓子
○いつのまに秋は立ちけんはしゐする秋すゝしくなりにけるかな　仙臺　阿部すゞ子
○小戻りに衣重ねて出るかな月てりまさる秋の夜の冷　東京　秋元小菊
○天津そら雨吹初めていつしかと尾花の袖に秋ひえにけり　東京　中山正子
○蟲の音にそのさひしさは見ゆるかな秋風さむき衣手のもり　京都　金澤收子
○小夜更けて寢覺の床にひやゝかに置く露しけくなりまさる哉　靜岡　竹内幸子
○風のみか四方のなかめも何となくあはれ身にしむ秋そ淋しき　愛知　平松いと子
○濱松の音なふものは秋の聲きけは身にしむ心地こそすれ　岡山　藤波音子
○音羽山秋のあしたに吹く風はさもひややかに身にそしみぬる　岡山　藤波おき子
○夏すきて秋は來にけり夜な〳〵に凉しさうたふ蟲のしらへは　京都　今井紀子

俳句　月

天　名月や人さま〳〵の物思ひ　京都　古川よね子
地　初孫の一人ふえたる月見哉　青森　田島正子
人　月二つ清き手桶に擔ひけり　京都　八田艶子

十客

見る人のこゝろ〳〵や月一つ　愛知　市橋幾子
澄み渡る月にも雲はかゝりけり　長野　植原千代子
玉とちる櫂のしつくや淀の月　京都　磯谷澪子
月すむや常の我家の庭ながら　東京　西川靜子
景色みな丸めて見るや今日の月　京都　山本縫江
明月を抱へし松の雫かな　東京　大瀬幸子
名月に手をひく父の微吟哉　埼玉　水野淑子
文臺に須磨の寫あり今宵の月　岡山　江田道子
行燈は庭の邪魔なり今宵月　熊本　齋藤さき子
照る月も露の浮世はありにけり　兵庫　下岡松枝

明月や金波碎きて水の上　青森　中津なほ子
大海や甲板の上の月今宵　岡山　青木琴美子
[illegible]

第卅八回作歌募集
題　菊
選者　佐々木信綱氏
規定　一人十首以内半紙に認むる事
優作は十一月三日發行の本紙上に披露すべし

第卅一回短文募集
題　菊花
選者　編輯局同人
規定　百字以下用紙葉書
優作は十一月三日發行の本紙上に披露すべし

第十八回俳句募集
題　菊
選者　編輯局同人
規定　一人一句葉書に認むる事
優作は十一月三日發行の本紙上に披露すべし

第十一回新詩募集
題　菊花
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの用紙葉書
優作は十一月三日發行の本紙上に披露すべし

締切十月十八日限り

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十月一日より
染織競技會開催仕候
並に
よせきれ見切反物種々
取揃へ大賣出し仕候
東京日本橋
白木屋呉服洋服店

著者が愛國婦人社說として執筆せられたるものを收めて本書にあり

女子高等師範學校教授　文學士　下田次郎氏著

新女訓

菊版美本一冊　三百三十四頁
定價八拾錢
郵稅六錢

本書は戰勝後の新しき日本に於て、婦人は如何なる覺悟を以て生活し、働かざる可らざるかを說けるものなり。著者は我國女子敎育の專攻家にして、其旺盛なる元氣と、國を思ひ婦人を念ふ至誠の、凝りて成れるものは、即ち本書なり加ふるに、其思想の深遠にして多方面なる、其行文の縱横にして機智に富める、著者を待て始めて在るもの。實に婦人の力たり、信念たり、生活の源泉たり、活動の元動力なるものなり。されば苟も今後の日本に於て家庭を治め、子女を敎育し、國家社會の爲め盡さんと欲するの婦人及び其準備の時代に在る令孃女學生諸氏の必讀すべき唯一の良女訓書たり、戰後婦人に供呈せらるゝ第一の賓與たりといふを憚らず、請ふ愛讀を賜らんことを。

發行所　東京市神田區錦町一丁目　特電話本局二四三八番　明治書院

愛國婦人を愛讀する者は本書を讀まざる可らず

第壹年第壹號十一月三日發行

最新式
婦人技藝講義
會員募集

●本會は時勢の要求に應して起つたのです
●本會は女子に技藝と品性修養に必要なる科目を獨修せしむる事及び修得の技藝を以て社會上に活用せしむる事を目的とします
●本會は以上の目的を達する爲め販賣部を設け會員の製作品の委托販賣を爲し一は國家の生産上に一は個人の生活上に强固なる基礎を建つる事を期するのです
●本會は機關として毎月二回技藝講義を發行します講義科目は刺繡、造花、裁縫、編物、組物、割烹、圖畫、の諸技藝を主として加ふるに修身、家政、國語、英語、習字、法制、音樂、禮法、茶道、插花園藝、等女子普通敎育上必須の學科を講じます
●講師は各斯道の大家にして女子美術學校跡見女學校女子職業學校青山手藝學校高等師範學校女子大學三輪田女學校に敎鞭を執れる人々です
●講義の方法は平易明晰なる文章を以てし且繪畫若しくは寫眞を應用して叮嚀懇切に講じます
●賛助員三輪田眞佐子、跡見花蹊、棚橋絢子、小川直子、佐藤靜子、山脇房子、津田梅子の諸先生を始め其他知名の敎育家本會を賛助せられました
●十一月三日第一號發行入會志願者は至急お申込み下さい
●入會金貳拾錢會費一ケ月六十錢
●會則入用の向は郵券二錢御送り下さい

東京市京橋區銀座一丁目六番地　帝國婦人技藝協會

十月一日より

一第十二回新柄陳列會
一、懸賞裾模樣陳列
一、時代風俗人形及意匠參考品展覽
一寄せ切れ見切り反物大賣出し
右何れも弊店內に於て格別盛大に相催し候間皆々樣御誘ひ合はされ不相變賑々敷御來觀被成下候樣奉希上候　追て今回新たに
一洋服部（三越呉服店向側南寄り）
を開設仕り候上地質、柄合、裁縫共歐米の最新流行を其まゝ廉價に調進可仕候間續々御用命の程偏に奉願上候也

東京日本橋區駿河町
三越呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彙報

◉恩賜の義眼義肢　日露戰役に於て手足を失ひ又は失明したる軍人に對し　皇后陛下より義眼及義手足を御下賜相成る事なるが義眼申出人一千二十五名、義手足申出人二千三名にて右申出人中義眼千二十五名に對しては既に悉皆御下賜濟となりたるも義手足に對しては一千五百三十八名丈け御下賜濟みとなり殘四百六十五名分は目下其製造を取急ぎつゝあり完成次第御下賜相成る筈なり、尚樺太及滿韓地方に於ける守備隊の軍人に對しては其戰傷に準ずべき者にのみ特別の御思召を以て義眼、義手足を御下賜あらせらるべき旨此程御内意あらせられたるやに洩れ承はる

◉生死不明軍人と師團別　日露戰役の結果生死不明となりたる軍人は當初三千餘名なりしが全國各師團所屬部隊に於て其後大に苦心して精査に努力したる結果、今や各師團を通じて生死不明の軍人僅に十八名となれるが其全部は殆ど戰死者と認定せられ失踪又は逃亡と認定せられたるものは僅に四五名に過ぎずと

◉紀念碑建設の差止　三十七八年戰役間に於ける戰死病歿者の爲め各地方に於て建設する招魂祠又は紀念碑の建設は一切差止むべき旨寺内陸軍大臣より全國各師團へ對し去二十五日を以て左の如き内訓を發したり

三十七八年戰役は實に空前の偉業にして帝國最大の紀念となす而して此の役に歿せる將士無慮數萬人は孰れも祚諡稱の榮典と靖國神社合祀の恩命を拜し其芳名萬世に朽ちず豈し死者固より憾みなく遺族故舊又以て其意を安ずるに足るべし然るに近來各團隊若くは軍人相結んで此等殉死者の爲め招魂祠紀念碑を陸軍用地に建設せんとするの擧ありと聞く固是れ戰友故舊遺族の之を追慕し忠君愛國の龜鑑を表示せんとする至誠敬虔の衷情より出でたるものにて深く諒察すべき者ありと雖も既に官幣社に合祀せられたる英魂は赫灼として帝國の光榮と共に長へに光輝を無窮に傳ふるに餘りあり復爲んぞ私費を抛ちて如上の企を爲すの要あらん況んや一團隊の力一時善く祠碑を建立し得るとするも其保存維持の結果未だ確實なる能はざるの事情なきにあらざるに於てをや他年若し桑滄の變に際し保存の途なきに至らば獨り企業の精神を貫徹する能はざるのみならず反て忠魂神威を瀆すに至るあらんも亦知るべからず豈深く思はざるべけんや

以上の趣旨に基き定期に依る合葬墓碑若くは特別の事情ある墓碑の外各地に於ける招魂祠紀念碑等の設立は一切之を止むべし

◉遺族癈兵よりの禮狀　本會の救護金を交付せるにつき遺族より禮狀を送り來るもの多く其一二を左に掲ぐ

拜啓追々秋冷に相成申候處御中御壯健の事と奉察上候陳て叔事は毎日夫婦をよく奉り子の生長するをたのしみ居り候間御安心下され度候次に先達御丁寧にも大金御惠み下され難有御禮申上候先づは御禮まで

兵庫縣[illegible]郡寨宮村の内金竹　泥こきく

謹啓貴會益々御隆盛の段奉賀候扨て不肖戰役の爲め不計も兩手足の一部を失ひ不具の身と相成候處貴會に於ては多大の御同情を以て今度　總裁殿下の御令旨に依り會長閣下より金員御惠與に預り正に拜受仕候誠て御厚意を奉感謝候甚だ恐縮の至に候へ共何卒拜謝の旨　總裁殿下へ御執奏の程宜敷御取計下され度願上候恐惶謹言

岐阜縣郡上郡八幡町大字島谷七百八十番戸　山内安雅

◉小學兒童の名譽　閑院宮妃殿下には秋田支部總會に御臨の序を以て去月廿二日福島の松葉館に御一泊あらせ給ひぬ、其折柄一小學兒童は畏くも殿下より拜謁を賜はり無上の光榮を荷ひて退出たり其兒童は宮城縣刈田郡白石町平民當時福島町字盥寄留關古市馬の次男匡(十一)と稱し妃殿下のこたび同地に御一泊あらせ給ひしを聞知り子供心にも殿下に飴を獻じまつらせんと父に請ひて三十五錢を貰ひ受け袴を穿ち帽を冠り勇み立ちて家を出で白根屋といふ家にて飴を購ひ幵を携へて小雨降る夜を一人にて殿下の御館へと推參しぬ折しも殿下に隨ひて松葉館にありし松井家令は少年の殿下に物を奉らまほしく玄關に佇めるを見て引きて其意を尋ねしに云々の次第なりと小さき手をつきて述べしかば家令は奇しき事に思ひ幵は親の吩附なりや將た其方の心より出しにやと問試みしに匡はいと恐れたる樣にて全く自分の心より斯る物を捧げまつらんと來りしなりと彼の飴を出したれば家令は之を殿下に言上し如何計ひ申すべきやと御尋ね申上げたり殿下は之を聞し召し優しき小年の心かなとの御意あり苦しからず此方へ通すべしと難有き御詞をさへ賜はりたれば家令は之を少年に傳へ殿下の御居間へと伺候せしめぬ殿下は少年を御覽し種々御下問あり御菓子を賜はり且つ筆墨料として金千疋をさへ下賜ありたれば匡はいたく面目を施し又も喜びて家に歸りぬ、今其匡の家の樣子を聞くに父の市馬は去る二十三年より三十三年まで群馬縣に於て小學教員を奉職し今は福島驛保線課の事務員を勤め月給三十圓を受けつゝあり資性溫良恭謙なるものとて同僚の間に信用厚く且つ久しく小學に教鞭を執りし人とて兒童の教育には日常注意を深うし一日より三十一日に至る一ヶ月間一日一枚宛に聖賢の格言を記したる札を製して是れを居間に懸け置き毎朝この格言を敷衍して兒童に訓戒を與へ居り匡は其子として父の薰陶を受け今は福島第一小學校の高等一學年にあり此度圖らずも妃殿下に拜謁を仰せ付けられ且つ御下賜品をさへ頂戴して歸りたるより父の市馬は光榮身に餘り覺えず匡を抱いて暫くは嬉し涙に暮しとぞ

◉在獨逸玉井喜作氏　同氏の略歷は各新聞に掲ぐる處なるが日露戰爭以來身は萬里の異郷に在りて其業務の多忙なるにも拘はらず熱誠以て本會事業の擴張に援助し或は入會者を募集し或は寄附金を募集し前後數回其金員殆ど二千圓に達し又東北飢饉の報に接しては大に同情を寄せ寄附金を募集して千餘圓を本會に委託して三縣下へ送付する等奇特の士なりしが惜しむ可し異郷の地に永く客たるの人となれり本會よりは別項の如く會長より弔詞を贈れり

新刊紹介

▲娘と妻と母　松浦政泰著

本年八月金港堂發行　定價六十錢

本書は女子修養叢書の第一編として刊行せられしもの理論を尊一とせられし由多年經驗を積まれたる氏のこととて女子の智育、德育、體育、及び藝術、裁縫と各々章を分ちて詳說し[illegible]いて女子としての一般の心得より娘、妻、母、及び主婦としての心得を說き卷末に名士の訓誡、及家憲を添へありて一讀を要するの價値あり

▲地理辭典　郁文會編

本年八月郁文會發行　定價一圓卅錢

本書は普通家庭用として編まれたるものが凡て地名を其呼聲に應じて撰し出し得る樣辭書體に五十音順に排列しありて其地名の起原沿革時歟等を附記しあれば旅行案内たるには至極適當なるべし加之清韓地名字典を添へ卷末に畫引索引を附しあり

▲女文早まなび　井上友吉著

本年八月大野書店發行　定價一圓

本書は消息紀行送迎祝辭の四綱に別ち各綱類別作例を示しあれば文を書く人には善き參考書

▲美文大觀　小宮水心著

本年九月大阪偉業館發行　定價なし

書名の通り總論には美文と韻文と散文との區別を論じ其例を擧げ續いて作法を說き猶育類語を示したれば歐美文學を作らんとする人には好參考書

▲女性學　菊地武德著

本年九月東京堂發行　定價六十錢

本書は哲理的人情觀によりて戀愛嫉妬嫉視氣質及結婚等を說き之を歐米諸國の細君氣質を添へ以て各方面より人情の機微を察し流暢なる筆によりて女性を觀察し又之を研究しありて女性研究には面白き著述と云ふべし

▲家庭夜話百題　澤野易著

本年九月寶文館發行　定價六十錢

世に子を持つ母親たちは其子供等に促されて話の種がつきて困つて居る人があるだろーとの老婆心より[illegible]比喩談、昔々談、歷史談の三部に別ちて綴られたれば子供の讀物としても又適當

▲家庭衛生叢書　第十編　中川恭次郎編

本年九月博文館發行　定價二十錢

本書は林、大澤等の諸博士の講話を集め[illegible]に歐米と日本との好風俗と惡慣習とを說明しありて一寸面白し

▲女子の衛生　下田歌子著

本年九月富山房發行　定價四十錢

本書は女子自修文庫の第四編として刊行せられしもの著者の見聞せられし實驗談と名家門家の意見とを加味し全體を上下兩編十二章に別ち衣食住より始めて遺傳、產前後、哺乳及小兒の衛生等に至る盡せり只惜らくは簡にすぐるな

廣告

前號(第百十二號)(十四ページ)加島銀行廣告中(日本勸業銀行)とあるは日本勸業銀行(日本農業銀行)とあるは日本興業銀行の誤植に付き訂正いたし候

來る十月一日より十五日まで
冬衣大賣出し
よせ切見切反物特別大勉強
日本橋通四丁目角
松屋吳服店
牛山武兵衛
(電話本局 六〇八 七一六)

此琴絲ゞ器械ハ
令孃ニテモ手安ク〆ラル、ヨキ發明品
特約擴張ス御注文次第代金引換小包發送
專賣特許手打物製
大阪西區京町堀上通二丁目
琴絲ゞ器械製造販賣元
菱十堂

松みどり香油

本香油は品質の善良、香氣の優雅なる、世上幾多の香油の比にあらず、交際社會に活潑する紳士貴夫人令孃は一日も缺く可からざる逸品なり

定價　大壜四十五錢　中壜貳十錢　小壜十二錢

製造本舖　東京上野廣小路　山崎屋油店　電話下谷一七三五

販賣店ハ各化粧店にあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

煉香油

東京 井筒

編輯主任　文學博士　下田次郎氏

女子教育

第三卷第九號　九月一日發行　定價拾錢

本邦婦人雜誌中最も程度高く歐米最近の婦人に關する論説を紹介し最も讀み答へあるもの

發行所　東京市神田區錦町一丁目　明治書院

五二 共進會 美術織染物出品

東京 上 上總屋呉服店

人形町通　電話浪花六百十番

第五博覽會 三等賞受領

大小出來有◎ 圖面定價表御入用ノ節郵税二錢御送付次第御送呈ス

製造發賣元　東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番）銅器物問屋　南部鐵瓶販賣　石川商店

代理店　京都柳馬場　春井喜助

三宅克己先生筆　水彩寫生畫帖　第壹輯 第貳輯 第三輯發行　各輯金貳拾錢郵税金四錢

▲目錄 ○第壹輯 夏の富士、冬の夕暮 ○第貳輯 甲州川口の湖、郊外 ○第三輯 國府津附近の秋、江の島

遞信省戰役紀念及會社團體神社佛閣發行　紀念繪葉書

右全國各地よりの發行物約二百有餘種の目錄調製しあり望の方は往復はがきにて申込次第送呈仕候

東京本郷區湯島切通坂町三十九　櫻井香雲堂

OY

冬物新荷到着御披露

婦人洋服地并に附屬品、袴地、帽子、造花、りボン、洋櫛、ボア其他洋小間物一式

東京麴町貳丁目

婦人洋服裁縫仕候　八木屋號　大國市藏（電話番町七四二）

醫家　處方調劑

◎調劑之正確◎

一　醫師ノ處方箋ニ係ル調劑ハ極メテ丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス

一　當藥局ハ既ニ久シク醫家諸彦ノ御信認ヲ辱フシ尚東京郵便局ノ指定藥局タルノ光榮ヲ有ス

一　藥局トシテノ設備又大ニ完全シ醫家ノ處方箋ニ依ル調劑ハ必ズ主任藥劑師之レヲ擔任ス

◎藥品之純良◎

東京神田區今川小路（電車停留場前）　尾澤純良堂　藥劑師　大西橘三　藥局　電話本局一五一八番

洋食器具類一式

特許　輕便料理ストーブ　一名改良テンピは

輕便で完全に料理ストーブの効用を爲す　金二圓三十錢

實用新案テンピ　小金四圓五十錢　大金六圓

特許　富貴竈　銅壺空焚漏り保險

商品目錄御一報次第進呈す

阿部彦四郎商店　東京淺草區茅町淺草橋際　電下一九二三

白ゆり白粉は東京市内にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ品なり

我國創始

少年新聞

菊四倍大六頁　用紙舶來上質　挿繪　アルミニューム最新機械　三色版十三個以上　寫眞五個以上　木版五個以上

本紙は少年新聞の創始也體裁の美内容の善願くば一覽の榮を賜へ

毎土曜發行

智識欄……學界の大家執筆

文藝欄……文壇の名家執筆

世界雜報・內地雜報――各種新聞著名記者擔任

繪畫　山本森之助氏、岡野榮氏、中澤弘光氏、小林鐘吉氏揮毫

少年新聞定價　一部參錢五厘　郵税五厘

三月分前金五拾錢　半年分同九拾五錢　一年分金一圓八拾五錢（以上郵税共）

發行所　東京市淺草區須賀町貳番地　少年新聞社

一圓五十錢以上

改良樋箱

便器類陳列專賣店　水盤腰掛　敷瓦水灑

京橋銀座壹丁目西裏通り ⊕ 小柳陶器裏店

尚 ⊕ 京橋勸業場內より通路あり縱覽御隨意

諸國陶器類廉價販賣　京橋銀座一　電新千七十二

衛生便器　改良樋箱　發賣元 ⊕ 小柳商店

◎市內は何方にても物品御届申上べく候也◎

北米合衆國紐育市　シンガー裁縫機械會社

東京支店　東京銀座三丁目拾貳番地

大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地

長崎支店　長崎大工町六番地

東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番

「シンガーミシンは世界中一番高價なミシンですが輕くて使ひ易くて、奇麗て、機の構造の完全して居ることとも亦世界一です、僅が五圓、拾圓許りの差ですから、同じく買ふのなら始めからシンガーミシンを御買いなさい、經驗上御すゝめ致します」……とはミシンに委しき夫人方の實驗談！

斯くの如く洋服店、裁縫店、足袋商、シャツ商、靴商に大好評を得たるシンガーは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり、而してシンガーミシン專門の裁縫學校も漸次增加し、東京のシンガー裁縫女學院の新築工事は本年七月中に既に落成しました……（定價表目錄等御申込次第進呈す）

ミシン裁縫專門教授（規則書進呈、郵劵封入御申込アレ）

東京麴町區有樂町壹丁目五番地　シンガーミシン裁縫女學校

大阪東區北濱二丁目六番地　シンガーミシン裁縫女學校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人ちうじやうとう藥王
中將湯

子宮病　血の道
さん前　產後
のぼせ　頭痛
腰足　冷込
下腹　痛み
月經　不順
白血　赤血
其他婦人病
一切の特效藥

定價　三日分二十錢　七日分四十五錢　十五日分八十五錢　三十日分一圓廿五錢

本舖　東京日本橋區通四丁目　津村順天堂
支店　大阪堺筋大寶寺町南へ入

(ラクダ印)

(麝香石鹸)
ラクダ印麝香石鹸ハ高貴なる麝香に擬すべきミレースの香料を多量に含むが故壹度使用せバ其香氣身体ハ元より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間ハ腹部としてかほりを失なはざる效力ハ舶來品にも未だ見ざる特點を有す一大
○定價大形廿錢　小形拾錢
○熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地芳香剤製造所
井上太兵衛

紳士貴婦人用
登錄商標

高等
菊盛齒磨

▲到る處有名なる小間物化粧品賣藥各店に有御最寄御購求を乞▲

發賣元　東京　菊盛堂

貴婦人用小間物類
京染御半ゑり
其他束髮用品各種

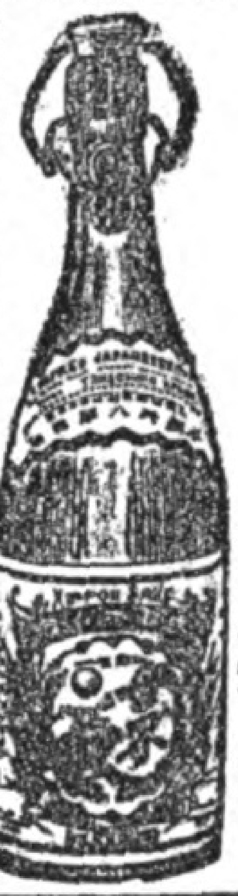
ゑびすや

電話本局二千九百四十七番
東京日本橋區通三丁目交番角全筋向支店

登錄商標

市内ハ御用命次第電話一報にて何時にても伺仕候
羽おり紐　筆しろ
東京よし町　伊竹組糸舗
電話浪花一五一
定價表ハ御申越次第直ちに呈送仕候

壜詰【最上清酒】
大日本優等清酒
世界長
御進物用は美麗箱入



世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり
世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり尚殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし
壜詰　一升入　四合入　貳合入　一合入の四種
發賣元　東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）
高橋商店
電話浪花一五六一番

無鉛高等化粧料
ピンク白粉
方香は世界無類一度御試用あれ販賣は全國到る處に有
佛國パリー直輸入
倉田商店

最新流行
美術蒔繪櫛笄
諸小間物
髮用品
和洋化粧品
香水石鹸
東京日本橋區よし町
電話浪花一四〇六

小町印
學生

帝都唯一受賞袴
小町印　學生袴
卸部　日本橋區彌生町　永井本店（電話浪花一八四一番）
小賣部　神田區南神保町　永井支店

目錄御一報次第進呈

樂しき家庭を作るに必要なる蓄音器

大阪蓄音器商會平圓盤發音器販賣

今春來吹込みたる
平圓盤新曲譜着荷
發音尤好良音聲樂器と平調價格低廉

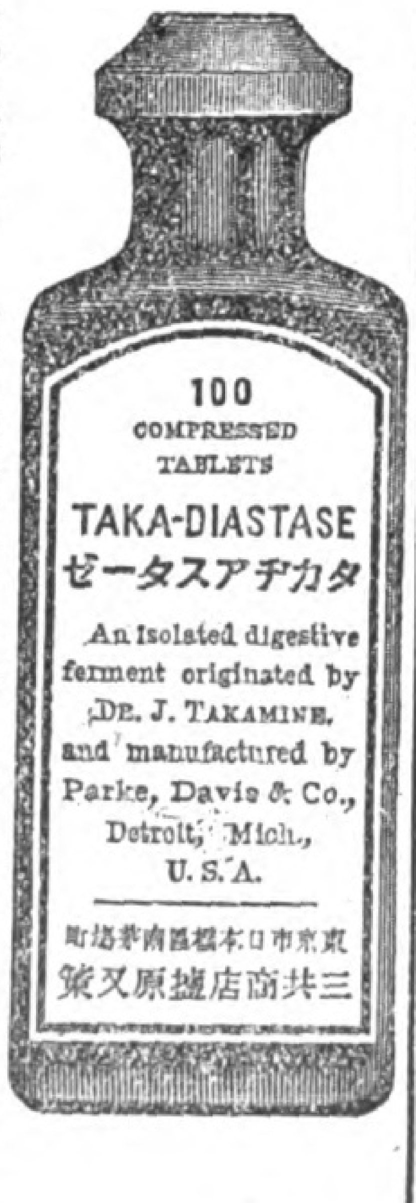
本店　東京市京橋區銀座一丁目（長電話新橋九七番）
支店　東京市淺草區並木町廿五番地（長電話下谷九八八番）
大阪市南區順慶町四丁目（長電話東二四一四番）
福岡市博多下西町廿三番地（電話五〇一番）
北海道小樽區色内町（電話三二三番）

東洋一手販賣
三光堂

消化新藥

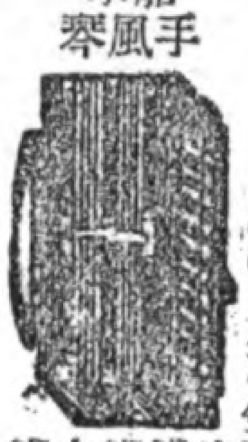
醫學博士　井上善次郎氏の
實驗報告に曰く
胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峰博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士　栗本東明氏の
實驗報告抄錄
高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の效力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり
錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。
實驗報告集は無代進呈

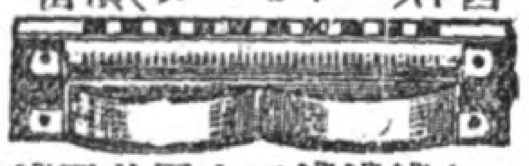


無師獨奏
紙腔琴

舶來手風琴



◎配用曲目二百五十餘種出來
●大形上製金十五圓●同中製金九圓●小形金七十五錢
定價三圓三圓五十錢四圓五十錢六圓七圓五十錢八圓十圓
西洋横笛（ハーモニカ）



●定價金卅五錢四十錢五十錢六十錢七十錢五錢一圓廿錢一圓五十錢以上

◎大聲蓄音器定價卅三圓五十錢六十五圓
◎十五圓平圓盤發音器定價金廿五圓
冊七圓金五十三圓金八十圓

教育的　高等玩具　新荷着

◎舶來バイオリン新着◎西川製風琴

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等香油
チエリーオイル
紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さらさらとして水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髮用として非常に高評を博しつゝあり
定價入十五錢、四十五錢
廿五錢（送料各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり

東京日本橋區本町二丁目
發賣元　高橋初次郎
電話特四一一三番

西洋薄化粧料

女俳優マダム
川上貞奴
佛國みやげ

此ヤッコで顏を洗ひますと色を白く艶を出し顏の小皺をのばす西洋薄化粧料ゆへ日本流の薄化粧や白粉下などを用ひるに及びません

ヤッコ

定價一鑵廿錢全國送賃四錢三鑵美麗函入
五十五錢同送賃十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ）

東京神田區御成道田代町九番地
ヤツコ日本一手發賣元
原品直輸入元　地球堂　田中丹治

胃病良藥　太田胃散

金銀時計指環類

東京銀座二丁目
伊勢伊時計店
電話新橋二三三一

御一報次第商品案內進呈

洋織物　裁縫物
毛布　敷物類
何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

最上醬油
キハク印
一香
旅順路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印
醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町
茂木七郎右衞門
電信略號（キハク）又（ハク）

東京支店
日本橋區小網町三丁目
中野長兵衞
電話浪花五七七番

從四位淺田宗伯先生直傳
淺田飴

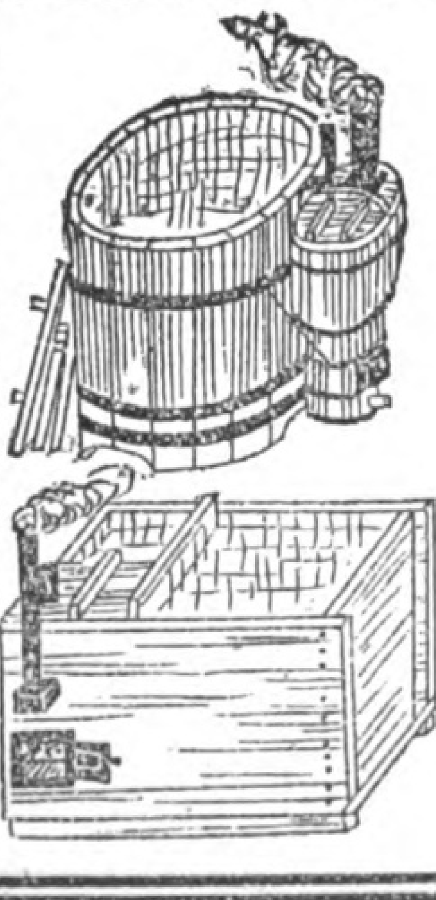
あさだ
淺田飴
すきはら
空腹に
めし
せんせきに

良藥にて甘し口にし
定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す
本家　東京神田鍛冶町
大阪北久寶寺町
堀內伊太郎

第五回博覽會賜褒賞

同式据風呂機罐



◎定價表御入用の方は郵券二錢御送付あれ

製造
日本橋區蠣殼町二丁目十五番地
名和商店
電話浪花千百七十七番

販賣元
神田區和泉橋通
松永町十八番地
名和支店

◎湯屋溫泉用釜◎料理店理髮店用湯風呂◎豆腐箱

補血良劑
ムホール無味肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尙喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
（電話本局三〇一八
電話特四九一）

第三回新學期開始

大日本淑女學會

高等女學校程度の講義錄發行

◎會員大募集

十月十五日迄の申込に限り入會金全免す、目下入會の好機

▲事情があつて高等女學校に入る事が出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます
▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません。本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします
▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみです講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です
▲本會講義錄は右に述べし通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都合一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます。

批評一班
▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
▲每日新聞評　米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
▲二六新聞評　高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
▲日々新聞評　講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味とを併て有する事斯くの如きは稀也
上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲規則書▼
端書にて申込あれば直に郵送す可し
◎東京神田南甲賀町
大日本淑女學會
（電話本局三千四番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如斯雑誌を妻君に見せざる良人ありや

婦人世界

十月三日發行 第一卷第十號 一冊十五錢郵税一錢五厘 六冊郵税共九十錢

口繪九頁 ◎名家令嬢新婚寫眞 ◎彩色石版畵外數葉

◎三輪田眞佐子の面影
△女史の幼時 △女史の苦學 △女史の良人 △女史の氣象 △女史の生理と

◎婦人姙娠の生理
△如何にすれば婦人は姙娠するか……醫學博士 伊庭秀榮

◎婦人の日常生活法 村井弦齋
（大評判の文字）●●●●●
▲客の饗應は如何にすべきか
▲急場の馳走は如何すべきか
▲夜は如何に過ごすべきか
▲手紙は如何に書くべきか
▲眼と齒は如何に清むべきか
▲寐室は如何になすべきか

◎小兒病氣應急手當
▲下痢腹痛の手當 ▲感冒の手當……加藤ドクトル

◎産時産後の心得
◎妻君の女中の使ひ方

◎弦齋夫人料理談
△薩摩芋は如何に選ぶか
△芋は如何に料理するか
△松茸は如何に選ぶか
△松茸飯は如何に作るか

◎寫眞は如何に寫すべきか
▲新婚寫眞は如何にするか
▲半身像は如何に寫すか
▲全身像は如何に寫すか
▲多人數は如何に寫すか
▲新發明の臺所用具

東郷大將の母堂
（絶代の偉人は如何に育てられしか？）
（本誌九號に掲載す：九號四版出來）

東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社（振替貯金參貳六番）全國賣捌書店

日本横濱市
金丸銃砲店
振替貯金口座四七一番加入
正價表及振替拂込紙郵呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帯用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新にて精巧完全なるもの各新式各種類に捗り漏れなく取揃へ置候
正價表は御一報次第郵呈仕候
振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても横濱本店にて實價買取同一の便法あり
詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

最上醤油元祖

上

釀造元 下總銚子町 濱口儀兵衛

荷扱所 東京北新堀七番地（電話浪花二一五九四） 濱口支店

○宮内省御用達也
○開業二百六十二年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

大阪西長堀南通一丁目電特（西二〇五） 濱口出張店

冬物輸着
新着英國製
更紗各種
小兒上衣
羽根フトン
●ボアー（駝鳥毛皮製）
●婦人、小兒用帽子
●キャンバース、及ビ
●アイスウール各色
●シャツ、手袋、靴下
●旅行用化粧道具
●外西洋小間物一式

伊勢與 三枝小賣店
東京市京橋區銀座三丁目
電話新橋三九二七番

カメリヤ洗粉

カメリヤは時代の要求により生れたる最新最良の洗粉なり香氣爽快にして色を白くし皮膚を艶麗ならしむ

定價
瓶入十二錢
袋入五錢
小袋三錢

發賣元 小林富次郎

HAIR—ROLLS U .S. PATENT.

◉米國最新流行の束髪前髪じん◉

ヘヤロール

▲流行の「エス巻」結に最も必要
▲輕き事「ハネ」の如く伸縮自在
▲髪を出すには、なかほどを糸にてくゝり長くせば格好宜し
▲頭部を冷して「フケ」を除去す

●ヘヤタイは貴婦人用の束髪元結にして切る事又は結ぶ手間を省き一本あれば半年の壽命を保つ德用便利の品

賣捌所 各地和洋小間物店

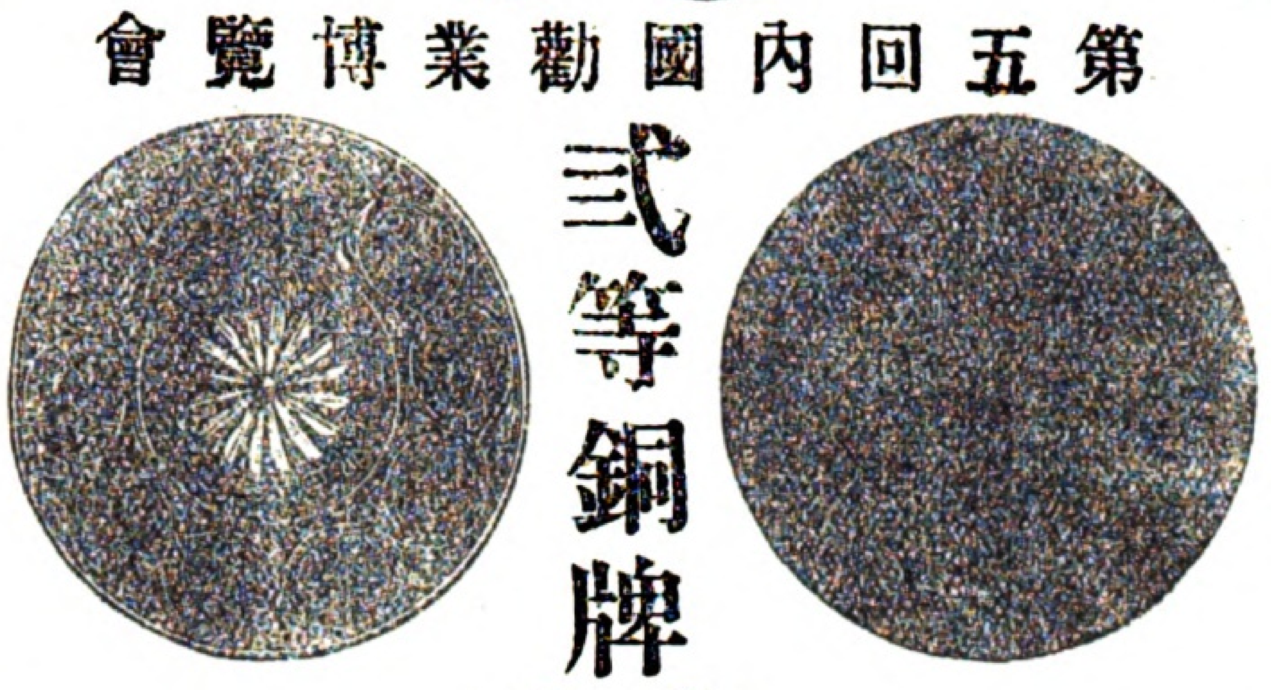
日本一手販賣元
東京市京橋區鎗屋町一番地
日加商廛

十月一日より冬衣裳ふとせぎれ見切反物賣始め申候

神田今川橋
松屋呉服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五回內國勸業博覽會



貳等銅牌

都足袋粋乃友

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用權ヲ得タルモノナリ
○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フヿナシ
○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ
○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラサル効力ヲ有セリ

購入簡便

遠國御需用者ノ御便利ヲ圖リ東京郵便區外十足以上御需メノ方ニ限リ御送金ナク尼送料下店自擔ノ上代金引替小包ニテ發送可仕候故ニ地方人士ハ坐ナガラ東京名產ヲ無賃ニテ購入スルヿヲ得ラルヽナリ

三重足袋君（きみ）の益（えき）

○三重足袋君か益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
○三重足袋君か益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒ヲ防ク効力ヲ有ス
○三重足袋君か益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮キリ體溫ヲ保ツノ効力アリ
○三重足袋君か益ハ製作最モ精密ナリ故ニ縫目ノ破綻スル虞ナシ

白羽二重絹足袋

○本品ハ高等服裝ノ際ニハ最モ必要ニシテ殊ニ交際場裡且ハ婚姻ノ盛典ヲ擧ゲラルヽ時杯ニハ本品ニ賴ラザレバ華美ナ盛裝ニ缺點ノ譏アル耳ナラズ貴重ナル衣服ノ裾ヲ傷フヿアル可シ

絹製股引

本品ハ殿方冬季御正服ノ砌是非共御必用ノモノニシテ出來品モ種々有之候得共御好ニ應ジ如何樣ニモ調製仕候

龜屋

日本橋區　**龜屋足袋店**　室町三丁目

電話本局（千七百十二番）　宮內清兵衛　電信略號（カ）或（ヤメカ）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町(常盤橋内)
日本興業銀行
電話本局(三、三〇〇番 四一一番 (特)三七一番 一〇二番)
一定期預金 年五分
一當座預金 日歩七厘
一特別當座預金 日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社森村銀行
電話(特)本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社十五銀行
電話新橋 三三〇番 一五三〇番 一一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹 錢

スコット乳菓
小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ
說明書ハ橫濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店橫濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

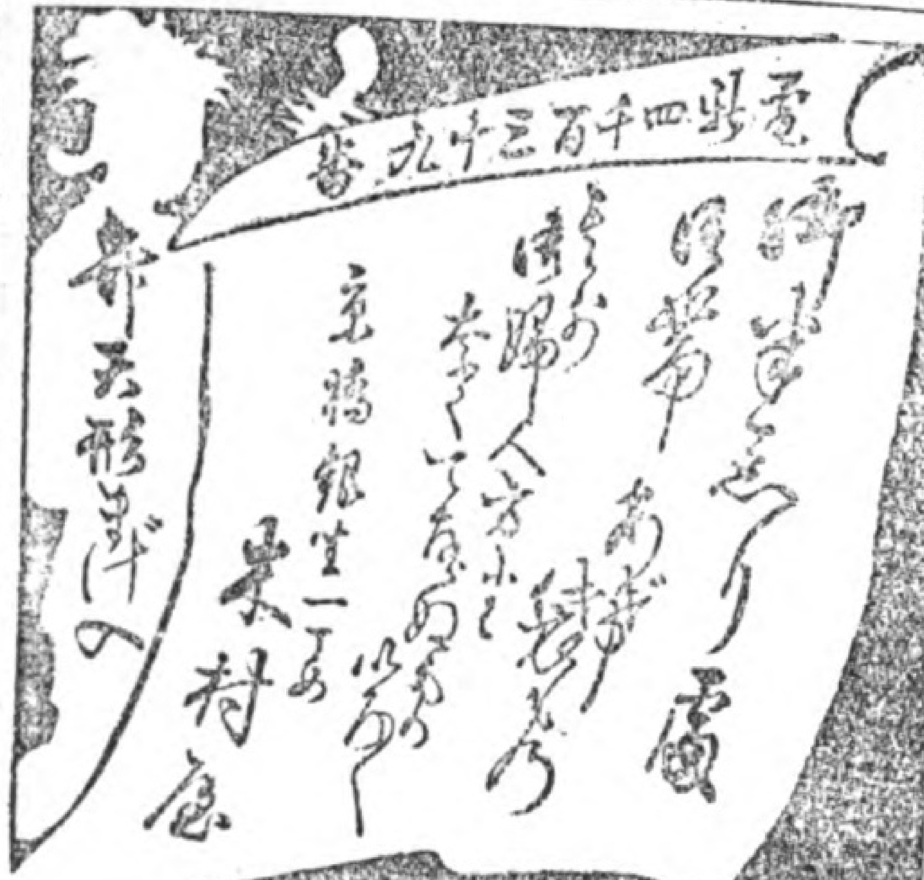
◎牛豚肉販賣及
西洋料理◎
◎品質佳良の肉類廉價に販賣候
◎配達は迅速に且つ正確に致候
◎滋養と風味の西洋料理調製候
◎西洋料理出前は格別相働き候
◎米店は精撰の白米廉價販賣候
◎御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町 電話番町六五九 西川本店
廿二番地
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷三二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社第三銀行
電話浪花四一二一番 浪花四一五一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金無手数料
其他銀行一般の業務取扱可申候

營業品概要
○各種時計類附屬品
○双眼鏡及アルズム鏡
○測量用諸器械
○製圖器及繪具
○氣象觀測器械
○貴金屬美術品
東京銀座四丁目
服部時計店
電話新橋長七一四、一一三〇

禱乃親王
東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目
美濃磯本郷支店
電話下谷二四一五番
淺草區諏訪町
美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町
美濃磯佐内町支店
神田區小川町
美濃磯神田支店
深川高ばし際
美濃磯支店
芝區新櫻田町
小田商店
牛込區神樂町一丁目
伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目
伊澤支店

男女
新形帽子各種着
◎五二會階上に多數の新柄出品陳列仕置候
正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
東髮用具
内外化粧品
玩具文具
東京神田小川町通り
東京神保町一番地



醫院案內

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
每日午前診察 每日夕刻診察
婦人科產科榊病院
東京麹町三番町卅三(電話番町三九五)

特に呼吸器病
內科小兒科
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀨元九郎
電話番町八二二番

水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八百〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

婦人科
小兒科專門
午前 宅診
午後 往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 內田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 烏山南壽次郎
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番
烏山內科院

產科婦人科專門
ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通
芝愛宕町
新二六四
同二六二〇
東京病院

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

第廿五回 產科婦人科學講習
十一月一日ヨリ醫士ノ爲ニ開ク
東京日本橋區濱町參丁目七番地
楠田病院教室

東京神田區美土代町三丁目十七番地
內科一般
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは(拾貳匁)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です
定價 拾貳匁入 金拾五錢 六匁入 金八錢 袋入二錢

芳香御肌洗粉ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり
定價 最上 金七拾五錢 五拾錢 參拾錢 拾七錢 金貳拾錢 普通 六錢 三錢
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元 御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

陸軍省御用木杯

木杯銀杯 定價表
御入用之節は御通知附可仕候
東京市日本橋區室町貳丁目
漆器商 時繪
木屋本店
林九兵衛
電話本局 九九七 特一七一〇

煉香油 パール

パールハ學術的最良ノ煉香油ニシテ四季ニ適シ毛髮ヒゲヲ保護養生シ兼テ惡臭ヲ去リ愛スベキ香氣ヲ有スル世界有數ノ逸品ナリ
發賣元 東京八丁堀 平尾分店

登錄商標
日本政府
◉本品ハ馥郁タル芳香ヲ永ク保ツ特色ヲ有ス
(小瓶全形)
(星顏印) 最上ハンカチーフ用
星美人香水
(定價) 大瓶 壹圓 中瓶 五拾錢 小瓶 貳拾錢
東京日本橋十軒店八番地
日本一手發賣元
中岡太洋堂

小栗風葉氏 新作 女學生

口繪活人畫
新案カシミヤ表紙
當世女學生の生活狀態は茲に風葉氏特得の辣手に依り直寫せらる、一面に於ては明治風俗史の好材料、一面に於ては世の父兄の好參考たり。
實價七十五錢郵稅六錢
東京日本橋 (振替口座一六一七一)
春陽堂

東京買物用達合名會社

東京市神田區[illegible]町

瀛車博覽會よりも瀛船博覽會よりも居ながらにして東京の物品を正確に安價に買求める便利は本會社の特色なり

▲當會社は地方に在て東京の物品を購入する人の便利を計る爲めに設立せし者也
▲當會社は東京に於て賣買する物品は如何なる物品にても買入に盡力す
▲當會社へ買入申込者は品名分量形狀品質色合使用向代金届先を詳記するを要す
▲當會社は無限責任にして確實公平に廉價購買に勉め迅速に送達を爲す

▲當會社は運送費荷造費の實價の外手數料として買入代價の百分の二を申し受く
▲當會社は買入代金十圓以上の物品は代金引換小包他は前金申受となす
▲當會社へ電話注文の向は直に買入三時間内に東京市内は配達するの便法を設く
▲當會社は東京市内に限り電話又は葉書にて申込次第店員差出す事あり

從來當發行所へ物品購入方御依賴の向は爾後右會社に向つて御申込み相成度候也
愛國婦人發行所

金銀盃類

秋の月にも春の花にも盃ならして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品として御授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし
宮内省御用達
東京市下谷池の端仲町
玉寶堂
電話下谷 (特九六五番 一二四四番)

日本第一の大勸業場

(本場の特色)
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市内無賃で配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます
東京新橋角
電話新橋 (一六五二 二三六一)

帝國博品館

各女學校 御用
附屬品幷に造花器械類一式
東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話(長)浪花一六四三番
營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

明治三十九年十月五日發行(每月五日二十日二回)
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 東京麹町 愛國婦人發行所
印刷所 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館 IMPERIAL LIBRARY

明治三十九年十月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人會名譽會員有栖川宮妃勳一等慰子殿下御肖像

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN